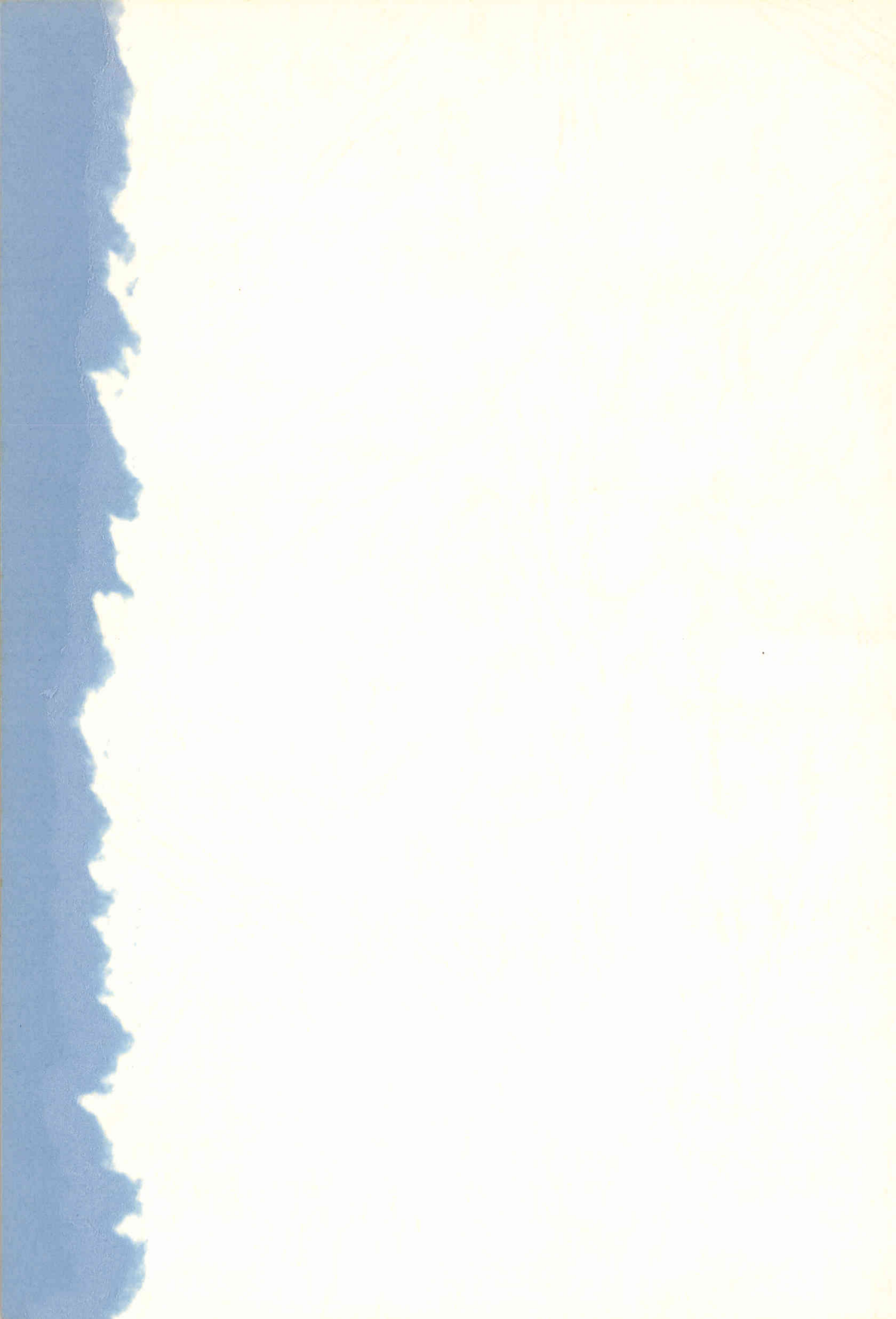


縞

—— その7 ——

松井源吾 著



縞

——その7——

松井源吾 著



新町紙雛 松井キヨ作

叔父山本修之助の著「佐渡の郷土玩具」(佐渡郷土研究会, 昭和48年)のp.20に祖母の作った紙雛の写真が出ている, ここに口絵として載せさせていただく。

叔父は同書p.116に, 「親戚の松井キヨ老女(松井源吾祖母)の作で, 江戸風のアネサマである。全長22センチ, 綿の入った髪はそれぞれ勝山, 島田, 桃割れと髪のかき方もちがい, 髪飾りもクシ・コウガイ(婦人のマゲにさして飾りとする具)をつけている。着物は, 昔の千代紙で江戸趣味あふれるものである。」と書いている。

なお, 私のこの本には, 今井兼次先生の礼状がはさんである。

「早速御祖母さまの作品“新町紙雛”の頁をめくり, その独特の単純な造形力と色調のうるわしさ, ことに後髪を大きく扱い, そして後姿の艶めかしさに心曳かれてしまいました。」

芸術院会員の今井先生にほめていただいて, 祖母は幸せである。

本書を亡き祖母に捧ぐ

私の還暦祝いに来ていただいた吉阪先生がその年の暮に急逝された。63歳であった。大変丈夫な方だったのに。つくづく生命のはかなさを感じた。それで、今までに方々に書いたものを集めて「縞—松井源吾還暦記念—」を出版した。

本の題を「縞」としたのは、私の研究が光弾性やモアレを使って縞で表されるものが多いからである。

その翌年、どういふものか方々から雑文を数多くたまれた。それらを集めて—その2—を出すことになった。以後は何となく毎年出すことになってしまった。これで—その7—である。

前に日経アーキテクチュアの記者は、この「縞」を研究室の機関誌と書いた。(昭和56年8月29日号) 今度、尾島俊雄さんの書かれた「東京21世紀の構図」(NHKブックス)の中では、私の自叙伝となっている。機関誌、自叙伝、どちらも気が引ける次第である。昔話と雑談集位に思っている。

ずっと続けて行きたいと思っているが、いつまで続くことであろうか。

昭和62年1月

目 次

序

1. ボイドラーメン雑話	1
2. 台湾での講演	15
3. 私の学位論文の頃	20
4. 多摩美との40年	28
5. 内藤先生御生誕百年記念パーティー開会のあいさつ	32
6. 蛭田賞について	36
7. ハラース教授逝去	44
8. 「ミッキー」に「カウ」と呼ばれて	46
9. 築地小劇場のことなど	49
10. 鮎	52
11. 「見える力学」の出版	54
12. わが水泳—その7—	62
13. この一年	68

著者経歴

1. ボイドラーメン雑話

——浅沼組「技報」(昭和61年8月)——

薄鉄板の円筒型枠を埋め込んで中空部を作る現場打ち鉄筋コンクリートスラブを筆者がはじめて実施してから20年余りになる。小梁なしで長スパンがかかるということの方々に使われるようになった。数年前に聞いたところでは1万件以上の建物に用いられているとの事であった。

このスラブのことを誰が名づけたのか「ボイドスラブ」といわれるようになり、鉄筋コンクリートの学会規準にもそう記されていた。Void というのは「無い」というような意味で、スラブなしというようであつたといわれた。菊竹清訓氏と、その頃よくこのスラブを使っていたので彼に考えてもらって「中空スラブ」ということにした。以後私の書いたものはすべてこれで統一しているが、通称は、やはりボイドスラブなのである。

何年か前に、工場生産の Hollow slab の委員会が出来た。その名前が「穴あきスラブ委員会」なのである。Hollow slab は「あな」がつきぬけている。孔とすべきで穴ではないのではないかと聞いたら、当用漢字に穴はあるが孔はないのだということである。辞書によると「穴は底あるアナ、孔は打抜けたるアナ」となっている。こんな場合はひらがなで「あなあき」とすべきであろう。ともかく吾々のスラブの「あな」は両方閉じているから、孔でも穴でもなく「中空」であるべきと思うのである。

しかし、二、三年前、建築雑誌にも紹介されたアメリカの例は、吾々のと全く同じ円筒型枠埋め込み現場打ちスラブで、その説明に Voided Slab となっていた。これを略したものと考えればボイドスラブでもいいのではないかと、とも思っている。

中空スラブは垂直荷重に効かすのが目的であるが、スラブ厚が大きく、また鉄筋の短期は長期の50%増しの許容応力である。これらを考えると地震時にも効かせることが考えられる。すなわち、中空スラブを平たい梁と考え、壁を厚くして平たい柱とし、両者でラーメンを構成させて地震時にも抵抗させるのである。通称、ボイドラーメンとよばれているものである。長手方向には壁がないのですっきりする。

「浅川テラスハウス」(菊竹清訓設計,「建築文化」昭39.10.)がその最初の例である。図1はその平面と断面で図2はその伏図である。矢印のようにボイドの方向は長手である。図3は梁としている中空スラブの配筋である。壁は厚さ30cmの中実で、縦筋は2階13 ϕ 、1階16 ϕ 15cm o. c., 地階16 ϕ 10cm o. c.で、それぞれダブル配筋, 横筋はすべて9 ϕ 25cm o. c. ダブルである。壁にもボイドを入れることは有利でない。スラブの場合は自重はそのまま長期荷重としてスラブの曲げに影響するが、壁の自重はそのまま影響するのは基礎にだけであって、地震には自重の何割かししか影響しない。中空管の値段は、それと同じ体積のコンクリートより高いのである。従って軽くなったことにより鉄筋が減らなければ意味がない。

また、コンクリートは硬化前は流体であって、壁の場合は下部では圧力が大きく、管がつぶれるおそれがある。

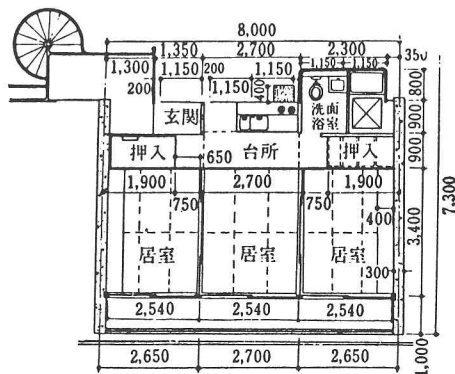


図1 (a) 浅川テラスハウス平面図

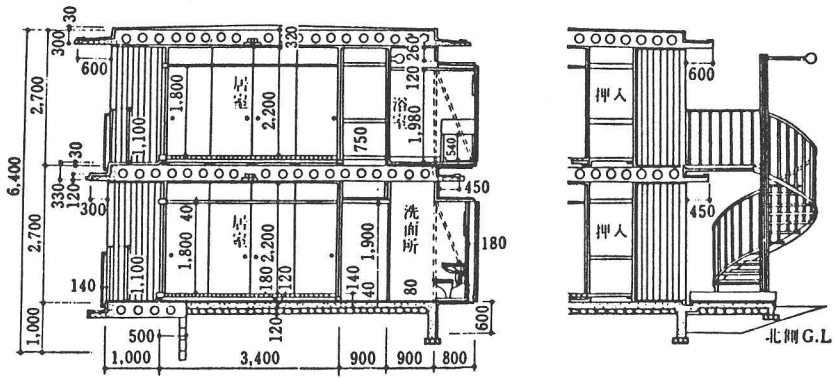
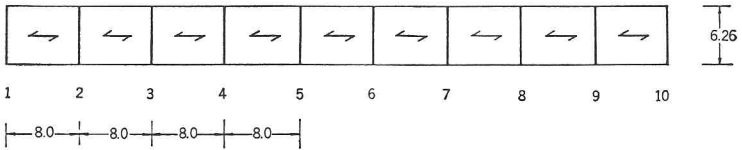
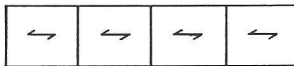


図 1 (b) 同 断面図

(R, 2階)



(1階)



断面

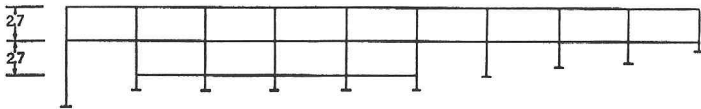


図 2 床伏せと断面

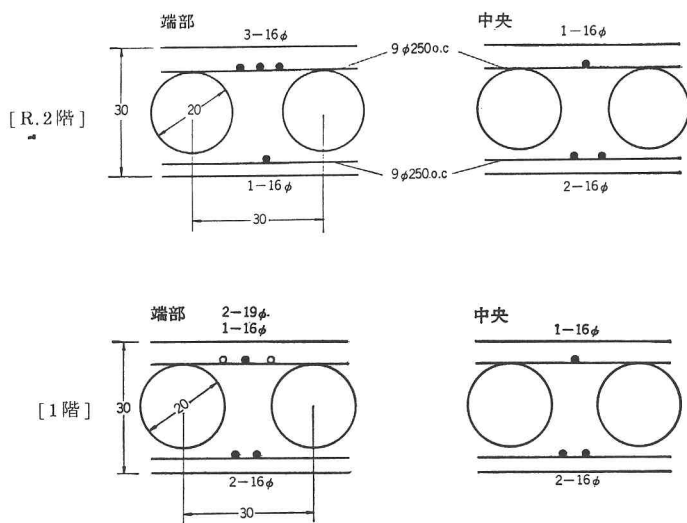
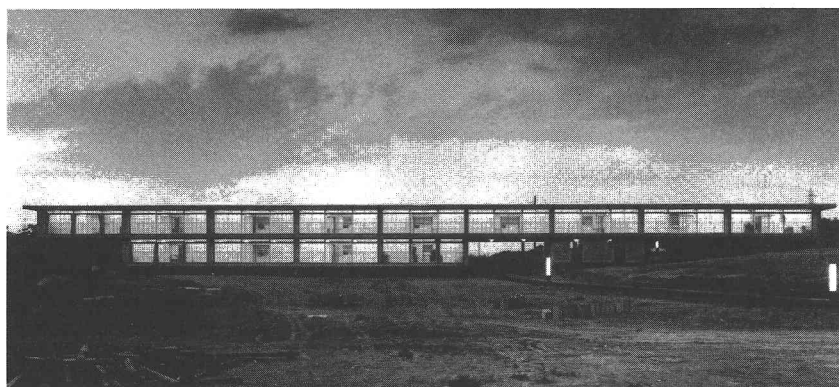


図3 床配筋



浅川テラスハウス夜景



同 左

その後、間口の小さい商店などで、1スパンのものが、このボイドラーメンが便利でよく使われるようになった。

ある学校建築で、この方法を採用するというので相談を受けた。4階建て、スパンは10mを超えていた。ボイドラーメンは、薄い板の接合であるから接合部の断面が小さい、この場合、接合部のせん断応力を計算してみると、許容応力を超えている。45度の小さなハンチをつけてもらうことにして、実験も行ってその有効性を証明した。2階建て位まではハンチはいらないが4階建て位になると必要なのである。

その後、ある施工会社の設計施工で4階建てのボイドラーメンのアパートが雑誌に出た。ハンチなしである。略算してみると、接合部が持たない。

その会社に電話したら、構造担当者がすぐ来て、なるほど接合部が持たない、どうしようということになった。幸い長手方向にプレキャストの壁がある、これを建物本体に完全に固定させて、これに長手方向の横力を持たせることにした。

今度、住宅・都市整備公団が4階建のアパートをこのボイドラーメンで実施した。（「日経アーキテクチュア」昭和61年2月24日号）

好評なので、これからも実施して行きたい、それには構造上の問題がいろいろあるので、「梁なし大型床構造集合住宅の開発研究委員会」というのを公団から頼まれ発足した。私が委員長である。この構造の接合部は、国土館大の田中教授、関東学院大の入江教授が、前からいろいろ実験されているので、資料をもらいたく電話したら、二人とも「ボイドラーメンですか」と。以来、この委員会、ボイドラーメン委員会ということになった。

公団では、この構造の5階建てを考えておられるようである。5階建てともなると固有周期が大きくなり、つまりゆれやすくなる。どうしても長手方向に壁がほしくなるのである。

私は中野駅前の4階建のアパートの4階に10年程住んだことがあるが、エレベーターなしの4階というのは仲々つらいものである。酔って帰った時などは特に。

前記の日経アーキテクチュアは、「夢ではない30cm厚の壁と床、庶民の家へ導入」と、ぜいたくらしく書いている。本当のぜいたくは2階か3階建にすることではないかと思う。これは「夢」であろうか。

追記 1.

中野駅前のアパートに入ったのは昭和27年の秋で、はじめは弟の昭夫と、あとは弟の潔と一緒に、約10年間住んだ。都の住宅公社のもので家賃が4,000円、都営アパートの倍であった。

大学の給料は15,000円位で入居資格がなく、弟に父が送金するという証明書を佐渡の真野町長から書いてもらって資格が得られた。それから抽選でやっと

入れたのである。

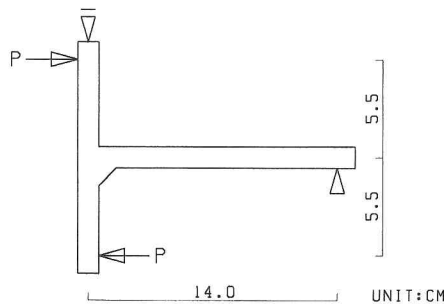
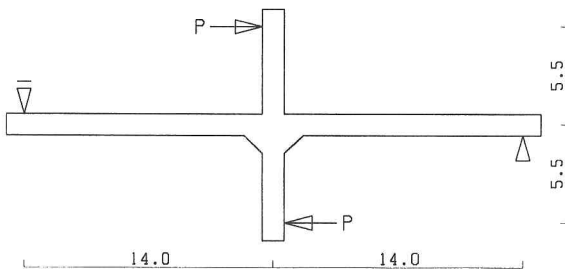
保証人は内藤多仲先生になってもらった。当時先生は駅前の三菱銀行の設計に関係されていたので、一度アパートの入口まで来られたことがある。6 畳と 4 畳半のアパートだから入口で全部わかってしまう。「小堀もこういうところへ入りたがっているんだが」とおっしゃったものである。

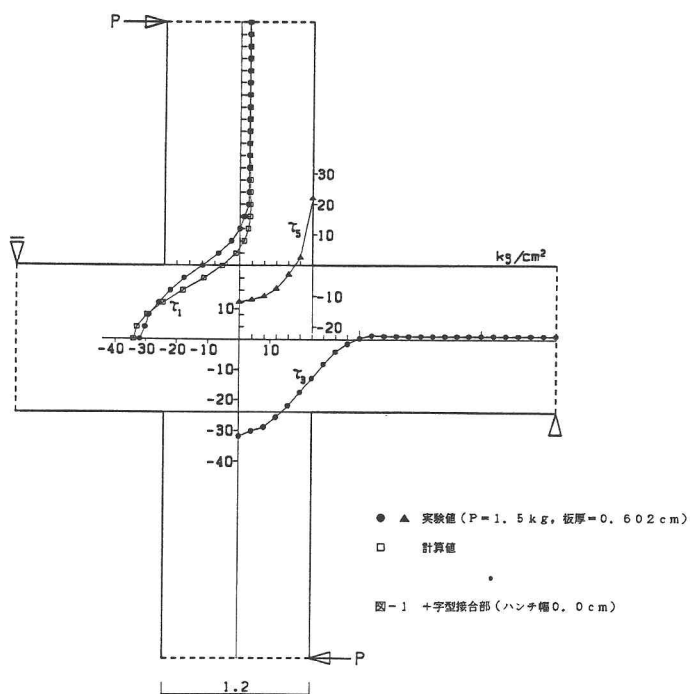
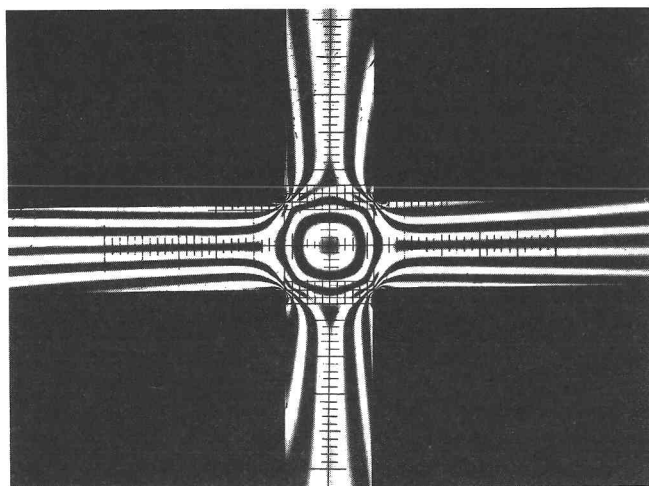
このアパート今も30年前と全く同じで、古びたまま建っている。

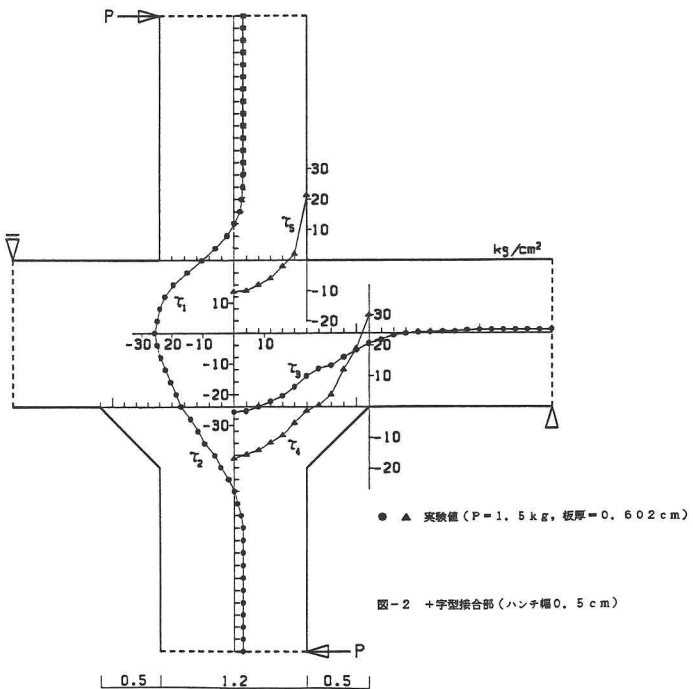
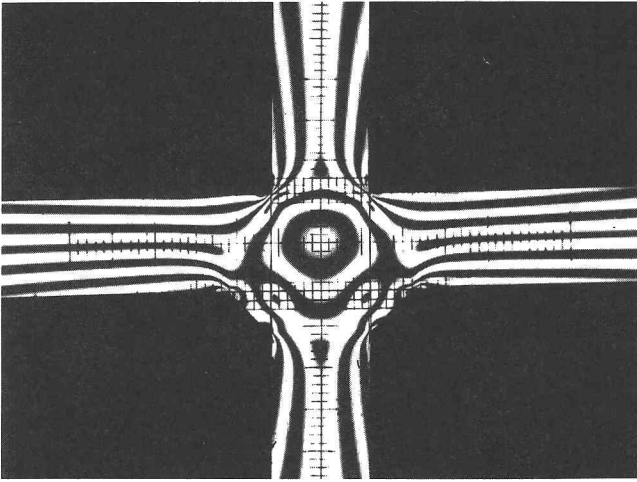
追記 2.

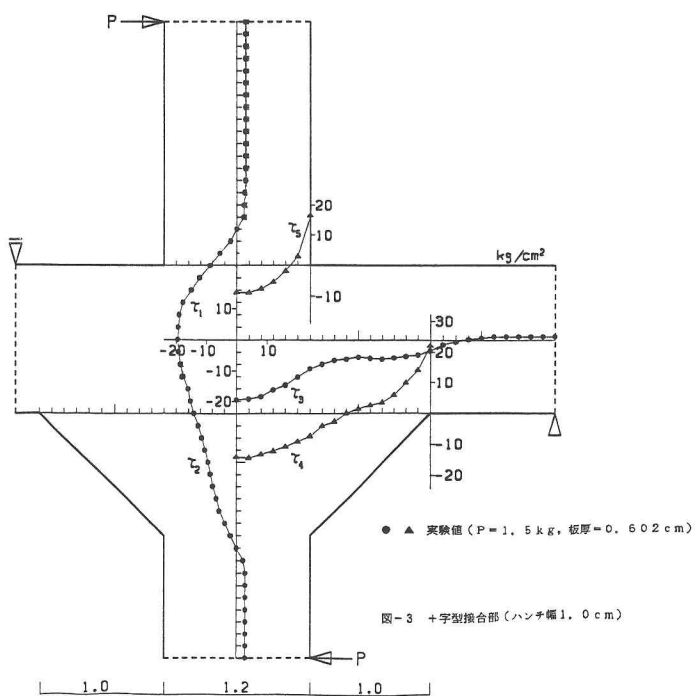
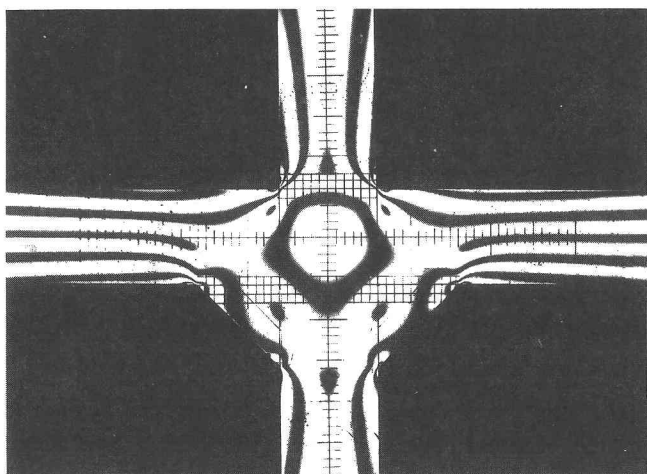
ボイドラーメン接合部でのハンチの効果について、国士館大の榎田君に光弾性をやってもらったのでここに載せることにする。

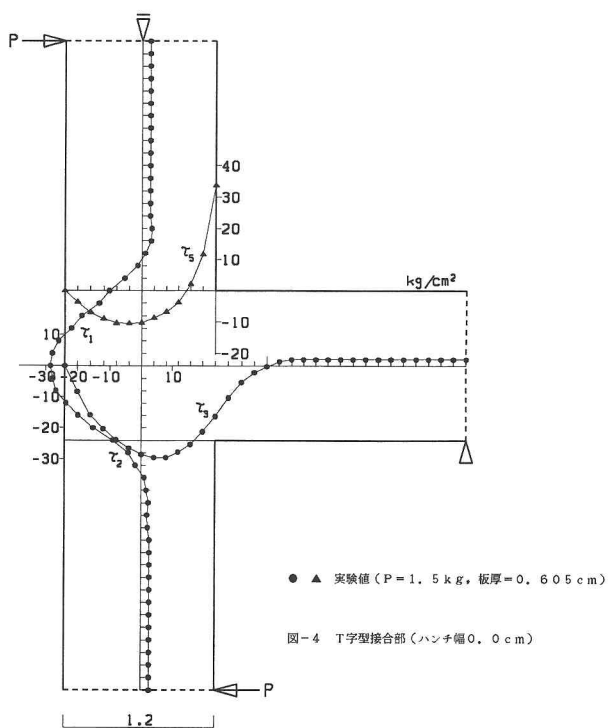
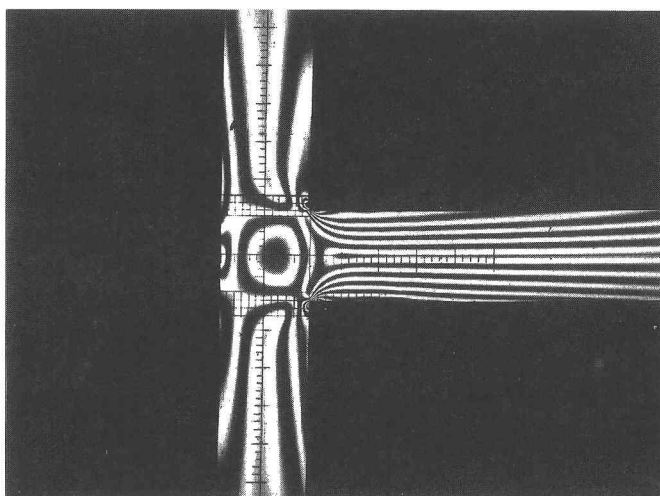
中間スパンの十文字型のものと、終端スパンのT字型のものについて、それぞれ、ハンチのないもの、ハンチの小さいもの、大きいものについて行っている。











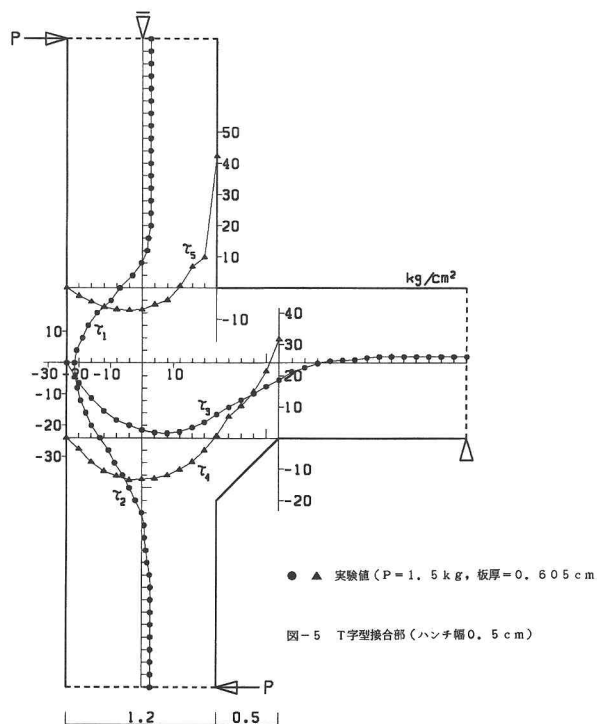
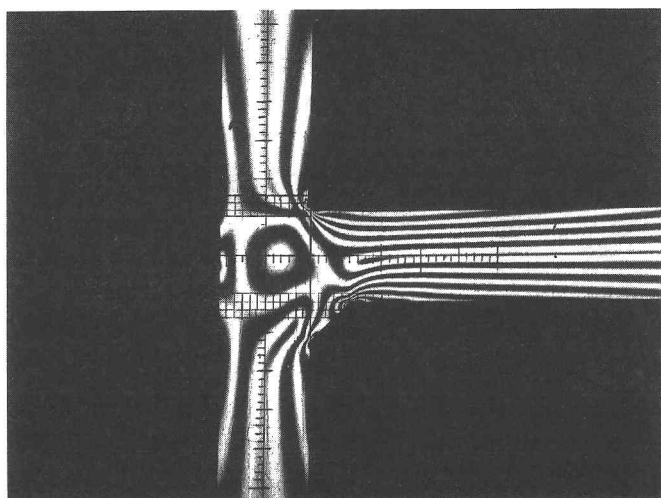
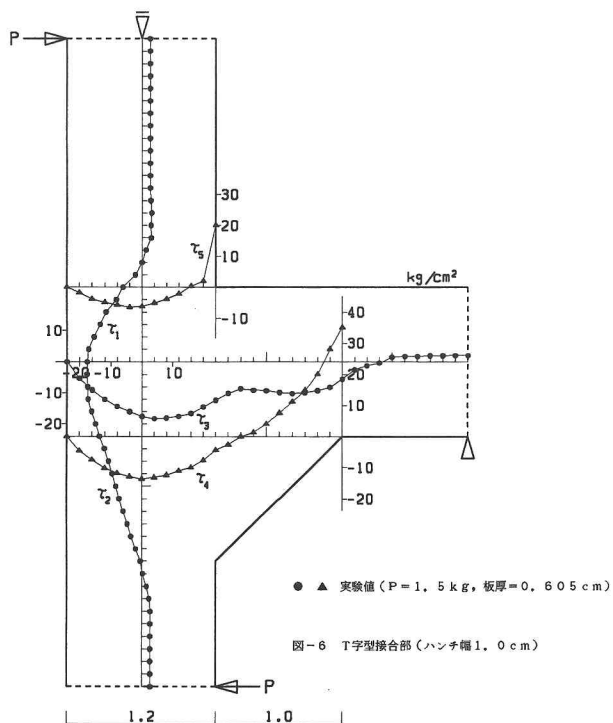
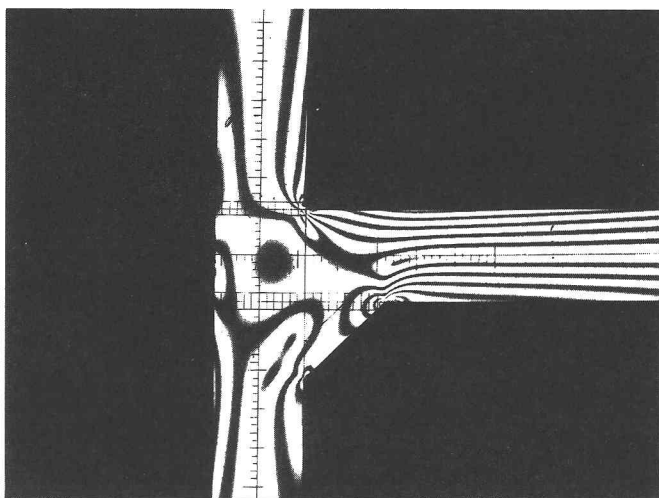


図-5 T字型接合部 (ハンチ幅 0.5 cm)



接合部の最大せん断応力は、ハンチがつくことによって減少しており、その効果が認められる。

面白いことに接合部の最大応力の起る点は、梁成の中心線の延長上にあることである。このことについては、フーリエ級数を用いた二次元弾性論で説明するつもりである。

2. 台湾での講演

——（昭和61年9月）——

この夏休みに机の引出しを整理していたら、8年前の台湾行きの書類や写真が出てきた。

大学の三年先輩の林慶豊氏から台北へ講演に来ないかといわれたのは昭和52年であった。パスポートが間に合わず、出かけたのは翌53年の9月である。パスポートによれば9月29日出国、10月1日帰国となっている。当時、曲線梁に熱中していたので、その話をした。通訳は東大へ留学したことのある游氏であった。ちょっと打合せただけで充分理解されたようである。年輩の方々は両国語がおわかりなので、今日の講演は通訳の方がうまかったと評された。

私と大学同期の李孝存君に久しぶりに会った。帰る前の晩は彼の一家と食事をした。普段は一緒に住んでないのだそうだが、その晩は子供さん、お孫さん全員そろって大歓迎をしてくれた。李君、大変元気だったのに、数年後亡くなられた。

先輩の林さんは、涼しそうな夏の中国服を着ておられた。李君に聞いたらデパートで売っているよとの事で買って帰った。腕まくりをするようになっていて、冷房のあるところ、ないところで大変便利で、以来毎夏愛用している。夏になると李君を思い出すのである。

中華民國建築學會
ARCHITECTURAL INSTITUTE OF REPUBLIC OF CHINA

中華民國建築學會邀請書。

致日本國早稻田大學教授松井源吾先生

中華民國二十七年九月十五日

邀 請 書

先生自西元1952年以來，在建築構造學之卓越研究和精勘論著，對世界建築優越的貢獻甚大。

本會以不斷研究建築學術提高建築水準為宗旨，為此特函邀先生能於百忙中安排到達我國，在本會發表建築構造的精心研究成果，將是本會無限光榮。

特此函邀聘請，無任感謝。

此 致

工學博士松井源吾教授。

中華民國建築學會 理事長 方世鎮
常務理事兼總幹事 陸聖章
敬邀。

招聘狀

中華民國 建築學會

會員通訊

中華民國六十七年十月

建築學術活動報導

主題：曲線梁設計之理論與實際（幻燈說明）

綱要：(一)概說 (二)理論 (三)正多角形
(四)平板（Flat Slab） (五)橢圓
(六)懸臂邊緣部份
(七)複境界應力之探討
(Complex boundary condition)

時間：民國六十七年九月二十九日（星期五）下午三時起至五時。

地點：台北市長安東路一段信孚大樓七樓（台北市建築師公會會議室）

主講人：工學博士松井源吾教授。

學歷：早稻田大學研究所、工學博士

經歷：東大生產技術研究員、早大教授

日本建築學會學術理事、早大理工學部建築系系主任

獎賞：日本建築學會獎、大隈學術獎

著作：建築構造學大系「材料力學」

（彰國社）1967年

「中空スラブ構造」

（彰國社）1969年

建築構造計算入門

（彰國社）1972年

建築構造力學入門

（彰國社）1973年

建築叢書「構造計劃」

（明現社）1974年

作品：早大理工學部校舎（安東勝男他）

1967年

萬國博覽會博覽塔（菊竹清訓）

1969年

船之科學館（三橋千悟）

1974年

福岡銀行總行（黑川紀章）

1975年

國立民族博物館（黑川紀章）

1977年

主持人：陳文祥先生、林慶豐先生。等之結構設計

翻譯：游顯得先生。

內容：

~ 1 ~

私の紹介



昭和53.9.29 台北

中華民國建築學會
ARCHITECTURAL INSTITUTE OF REPUBLIC OF CHINA

中華民國建築學會
自由中國台灣台北市信義路4段414號二樓
(2nd FL, NO. 414, Sec. 4, HSIN-YI Rd, TAIPEI CITY)
TAIWAN, R. O. C.
NOV. 20, 1978

致日本國早稻田大學教授松井源吉博士

感謝函

先生於1978年9月29日來到中華民國台北市為
本會會員所作關於建築構造「曲線深設計之
理論與實際」的精闢重要講議，對本會全體
會員貢獻很大，對中日建築學術交流樹立友誼
典範，本會全體會員特此銘謝。



理事長 方汝鎮 (J. C. FANG.)
幹事 陳碧潭 (CHEN PI-TAN)

礼 状

3. 私の学位論文の頃

——（昭和61年7月）——

精木紀男君と田中輝明君が学位論文を提出、先日の教室の公聴会を通過した。近く塚越勇君が提出する予定である。何だか、どっと出て来るのは、私の定年近しを意識してのことであろうか。

私が学位論文を提出したのは昭和34年の秋で、この年が旧制度最後の年である。新制度になると旧制の人は試験を受けなければならない、大変だということで、出しおけていた連中がどっと出した。ポツダム博士といわれたものである。

私の論文受理の教授会（当人は受理の時も判定の時も出席しない）の時、主査の鶴田先生が沖縄に出張されており、台風で飛行機が飛ばず欠席された。主査が本人の経歴などを説明するのである。当時の理工学部長は電気の高木純一先生で、「御存知の松井君です」の一言で、受理がきまったということであった。

箱根の宿で、一泊二日で審査していただいた。

判定の時の教授会は夜になった。私は新宿の「馬上盃」で、木村幸一郎先生を待っていた。その頃は毎晩先生と馬上盃で飲んだものである。先生が大分おそくなって来られて、「おいきまったよ」といわれてほっとした。その時ちょうど馬上盃の社長の安田さんがおられて、となりのホテルに部屋を用意します、祝杯をあげましょうとの事。その部屋に行くと、女中さん達が次々とお祝いに来る。木村先生が「お前人気あるな」と。先生が教授会の話をされだすと、一人へり二人へりで誰も居なくなった。安田さんも居なくなり先生と二人だけとなってしまった。その頃、ある映画の女優さんとの話があった。先生の

「きまった」を安田さんはそのことと思ったのである。彼女達、学位など全然関心がないのである。先生と、それに気がつき、二人で大笑いした。

「学位記」は総長室で大浜総長から手渡された。定期的なことではなく、学内全体で10人位になると授与式があったようである。その時、事務の人から、卒業証書も渡されてびっくりした。(卒業式は鳥取地震の調査に行き出られなかった。同級生も大半軍隊に入っていて出られなかったはずであるが、復員後もらいに来たらしい。)卒業して17年である。ちゃんと保管されていたこと、私がまだもらってないことを知っていたこと、本当に思いもかけず、感激した。学位記よりは、この卒業証書の方がずっと大きく立派であった。この文を書くので、家中さがしたが、どちらも見つからなかった。

昔、内藤多仲先生が、御自分の学位論文の審査報告書を持って来られ、「こういうものが見つかったよ」と私に示されたことがある。今度の内藤先生の記念文集に、それを載せたいと思ったのであるが、膨大な文書の中からさがすのは無理だということで断念した。

この章の終りに、私の学位論文の審査報告書を載せることにする。(建築学担当)とか(数学担当)とかは現在は書かない。当時はそういう習慣だったのか、私の場合だけなのか、わからない。

私の学位の弟子達のお祝いは馬上盃の二階であった。20人位集ってくれ、時計をもらった。6万円のスイス製であった。

追記(9月10日) この夏佐渡へ帰ったら「学位記」は額に入れられ応接間の壁にかけられてあった。

松井源吾学位論文審査要旨

論文 鉄筋コンクリート壁体の剪断抵抗に関する研究

提出者 松 井 源 吾

鉄筋コンクリート構造又は鉄骨鉄筋コンクリート構造の建物において、鉄筋コンクリート造の壁体が地震又は風圧等の横力によつて生ずる剪断力に対してきわめて有効に抵抗することは、内藤多仲博士が指摘されて以来広く認識され、多くの研究者によつて研究が行なわれている。又実際の設計においても通常の建物では耐震壁が地震の総剪断力の $1/2 \sim 2/3$ を分担し残りの $1/2 \sim 1/3$ を架構に分担させる設計が多い。

しかるに従来の多くの研究は、主として変位を基にして架構に対する壁体の剛性比率（横力分布係数）を求めることを目的としており、壁体の強度についての組織的研究は少なく、配筋方法と強度との関係については殆んど明らかにされていない状態であつた。

本研究は、壁体において開口の有無或は大小等による種々の場合の配筋方法と強度との関係を明らかにし、壁体の部分的破壊をさけ、全体として大きな変形まで抵抗させるように、設計を合理的ならしめることを目的としている。

本論文は、無開口壁の場合と開口壁の場合の2篇に大別し、9章より成

つている。

第1篇 無開口壁の剪断抵抗

第1章においては、弾性範囲内の鉄筋コンクリート壁体の剪断抵抗を理論的に考察している。

異物質を含む弾性体が剪断をうける場合の応力函数を複素函数で表わし、之を鉄筋コンクリートの場合に適用して解き、剪断応力の分布状態を求めている。その結果として鉄筋の存在により応力のみだれが生ずるが、之は局部的であつて全体としての剪断抵抗は無筋の場合と殆んど等しいことを証明している。このことは従来実験結果の推定により経験的に鉄筋コンクリート壁体の剪断弾性係数としてコンクリートのみの剪断弾性係数を用いていたことについて、初めて理論的根拠を与えたものである。

又鉄筋が接近した場合の影響については、双極座標を用いて解き、剪断面に平行して並ぶ時は最大剪断応力度が増大するが鉄筋間隔が直径の3倍以上であればその影響は殆んど無視出来ることを指摘している。

第2章及び第3章は、鉄筋コンクリート模型による実験的研究であつて、従来の実験方法は曲げと剪断が混在して剪断のみによる変形および強度の判定に困難であつたのに対し、著者は対角線方向より加力する方法を創案し、之により剪断のみに対する性状の解明に成功している。

第2章においては、架構付き壁体の実験により、通常の架構程度の拘束をうける壁体は剪断による引張り亀裂で破壊することを確かめている。又最初の亀裂が起る時の荷重は鉄筋量には無関係であるが、亀裂が大となつて壁全体が降伏する時の荷重は鉄筋量の増加に比例して大となり、その強さは鉄筋のみの降伏強さよりやや大であつてコンクリートの引張り強さの約 $1/4$ がなお抵抗していることを明らかにしている。

第3章は外よりの拘束が一層大なる場合として壁体の四周を四隅ビンの剛な鉄枠にボルト締めして行つた剪断実験の結果をのべたものである。之は他の壁体にかこまれた場合に相当し、破壊はコンクリートの滑りによる剥脱であつて、通常の壁体の鉄筋量（0.3 %）以下では鉄筋量に関係なくコンクリート引張り強度の3倍位の抵抗であることを示している。

第4章においては、拘束が変形でなく外力として与えられた場合、即ち剪断と圧縮を種々の比率で受ける場合を対象として、一方向引張り之に直交方向に圧縮する組合応力状態の鉄筋コンクリート壁体の強度を実験的に研究している。この結果剪断応力と同程度の圧縮応力に相当する拘束では引張り亀裂による破壊であることを明らかにしている。

第2篇 開口壁の剪断抵抗

第5章は、中央に開口を有する架構内壁体が剪断力をうける場合につ

いて、二次元の弾性体として理論的解法を行つたものである。之により応力から配筋方法を、変位から剛性を研究している。ついで第5章において光弾性実験により第5章の理論解の妥当性を確めている。

之らの結果によれば、開口のある壁の剪断応力の分布は一様でなく、最大剪断応力度の平均応力度に対する割合（集中率）は開口率に比例して大となることを明らかにし、現行の設計基準においては平均応力を使用しているが、之は危険側の誤差があることを指摘している。

又斜めの引張り応力は開口の隅で最大であり、開口の隅から壁内部に入るに従つて減少し、壁の隅に到るとかえつて圧縮応力となつている。その減少の割合は開口の小なる場合には急激であり、大なる場合には緩慢である。開口隅部の補強量については、開口の小なる場合現行基準でほぼ正しく、大なる場合は危険側の誤差があり、開口隅よりやや内部に入つた部分にも更に多少の補強を必要とすることをのべ、その補強量を算出している。

開口周縁の配筋方法については、現行規準は引張り力が周縁に集中するとの仮定により算出しているが、引張り力の中心には開口周縁より壁巾の約 $1/3$ 程度内部にあるから現行規準の約 1.5 倍の鉄筋量を周縁及びその内側に配筋すべきことを示している。

又開口のある壁の変位はポアソン比に関係するが、開口率による剛性の低下率は、ポアソン比の差異による影響は非常に小さいことをのべて

いる。このことは従来鉄筋コンクリート開口壁の横力分布係数を求める場合に、ゴム模型による実験を行つてゐるこの妥当性を証明したものである。

第7章においては、鉄筋コンクリート模型実験により、開口の隅に対する補強は斜め補強筋が有効であり、地震の如き大きな繰返し外力を受ける時はその長さは相当長い必要があることを明らかにしている。

第8章は最近各地において行なわれている架構のない壁だけの構造、即ち壁式構造における開口の影響についての光弾性実験による研究をのべたものである。

この構造方式では、開口と開口との間にある壁が梁又は柱として働き、夫々便宜壁梁、壁柱と名づけているが、壁柱の剪断力分担の割合は、中側の壁柱が外側の壁柱に比べて非常に大きく、通常のものでは中側壁柱の最大剪断応力度は、全壁柱断面積についての平均剪断応力度の約2.5倍であり、特に階段室の如く高さのくいちがつた開口のある附近では更に大きく3倍以上にも達することを示し、現行壁式構造規準の壁量算定の基本仮定である2倍は過小であることを指摘している。

しかし、開口隅の斜め引張り力に対する補強は現行の規準で充分安全であつて、必要量のほぼ2倍であることを示している。

第9章においては、開口のある壁はコンクリートの収縮によつても応力の集中が起ることを第5章と同様の方法で解き、開口周縁および隅に

補強すべき鉄筋量を算出し、剪断補強以外にも之による補強がまた必要であることをのべている。

以上を総括すると、耐震性を特に重視しなければならない我国の建築物において、耐震構造上多大の効果を持つ耐震壁に関し、従来の比較的小規模な実験による類推と経験とから行われてきた便宜的な設計方法に対し、本論文は、開口の有無、大小の各種の鉄筋コンクリート壁体について、夫等の剪断抵抗機構につき組織的な研究を行つたもので、困難な理論的解析を行い、併せて、対角線方向より加力するという巧妙な方法を創案することにより、剪断力のみに関する性状の解明に成功し、理論解に対する実験上の裏付けを行つて、確然たる設計上の根拠を与えると共に合理的な配筋方法を提案していることは、耐震設計技術の進展に寄与するところ少なくないものと言いうる。

よつて著者は工学博士の学位を受ける資格あるものと認める。

昭和34年11月 日

主査委員

早稲田大学教授 工学博士 鶴 田 明（建築学担当）

早稲田大学教授 工学博士 竹 内 盛 雄（建築学担当）

早稲田大学教授 理学博士
工学博士 佐 藤 常 三（数学担当）

4. 多摩美との40年

——（昭和61年12月）——

先般多摩美から「多摩美術大学50年史」というのが送られてきた。旧教員ということであろうか。

私が多摩造形芸術専門学校建築科の講師となったのは昭和22年である。もう40年前になる。当時私は大学院学生であった。今井兼次先生の推薦によるものであった。当時、理事だったと思うが、後に理事長になられた実質的創立者である村田晴彦先生がおられたためかと思う。村田先生は佐渡中学の先輩である。後にワンマン理事長といわれたのであるが、「50年史」の中で奥野教授は「生涯のすべてを多摩美術大学と、新しい美術教育に捧げた村田晴彦」と評されている。また今井先生は創立から関係されており、戦災で焼失した木造校舎は先生の設計であった。

私の担当は構造力学であった。美術学校の学生であるから、数学や力学に弱い、それをいっさい加減しない講義だから、全然わからなかったらしい。しばらくしてから微積分を簡単に説明しろという要求が出てがっかりしたものである。学生数は4～5人だったので大変親しくなった。月給日には全員で渋谷で昼間から飲んだ。



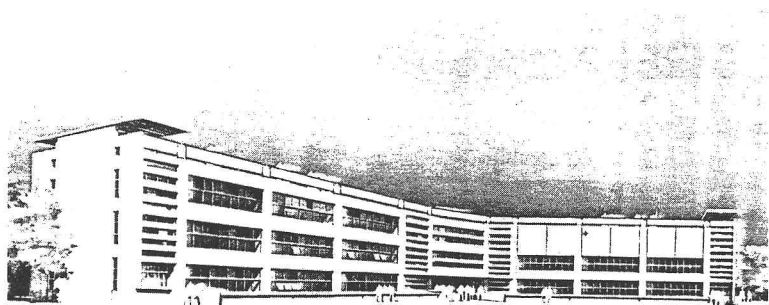
村田晴彦先生

当時の校舎は、上野毛校舎が焼失のため、溝ノ口の工場あとが仮校舎であった。行きの電車でよく倉西正嗣先生と一緒にた。先生はいつも論文を読んでおられて感心した。(慶応の工学部が溝ノ口に仮校舎があったため、講師で行かれたのだと思う。)

この講師は、数年で学校が短大になり、建築科は廃止となったためやめた。「50年史」によれば上野毛の講堂が昭和33年に建ったと書かれているから、その翌年位かと思う、村田理事長から呼び出された。講堂の壁から雨が入る、また、二階の梁が振動する、調査してくれとの事。壁は耐力充分なのだが薄すぎた、二階梁は剛性は少々小さいが強度は充分と報告した。この報告が気に入ったのかどうか、以来、私に構造を担当させてくれた。だから上野毛校舎は講堂以外全部私の構造設計である。デザインのほうは多摩造形芸術専門学校第3回卒の若杉昌也君である。

本館は地上3階地下1階のRC造で、直接基礎である。ボーリングによると地盤に傾斜がある、杭打ちかと迷った。内藤多伸先生に相談した。建物は何だといわれるので学校ですという、鉛筆がころがる位のことだ、杭はやめろとの事。そのまま村田先生に報告。杭打ちはやめにしたが、その後鉛筆がころがるという報告はない。両親分の判断は間違っていた。

昭和41年に実習教室が出来た。これには私の中空スラブが採用された。若杉君は「50年史」に「柱、梁のないシンプルな空間を構成し、工期の短縮、施工



多摩美術大学実習教室パース（「建築文化」昭和39年10月号）

の省力化、工事費の低減など、施工上にも多くのメリットを持ち、当時の学校建築のモデルケースとなった」と書いている。

昭和43年から多摩美は学園紛争である。村田先生は大変な苦勞された。私は同じ時、早稲田の建築科主任だったが、一学科主任でも大変だったものである。

「50年史」によれば昭和44年八王子本館竣工とある。上野毛でゴタゴタしている時に、どうして八王子の方がスムーズに行ったのか不思議である。設計は若杉君で、構造は私の指導で弟子の田中輝明君が担当してくれた。図書館も田中君の構造で中空スラブである。

昭和46年に大学に建築科が出来た。主任教授の田中一先生がわざわざ自宅まで来てくれ、村田先生の希望で是非私に講師をとという話である。また田中先生は、当時よく売れていた私の「構造計画入門」を教科書に、構造計画をというのである。そういうわけで久しぶりに昭和47年から多摩美の講師となり、八王子校舎へ行くことになった。しかし、八王子は本当に遠い、学生数も多く、昔の多摩美ではない、当方も年をとってしまった。そんなことから、この講師も3年でやめ、弟子の斉藤欽哉君に代ってもらった。

村田先生は大変面倒見のよい方であった。佐渡中学後輩の名畑成進君は、溝ノ口校舎の守衛をまかされ、守衛室に寝泊りして多摩美の油画科を卒業した。名畑君はその後、染色の学校を經營され（東京染色美術学院）、校長である。この学校も若杉君設計、田中君構造である。その竣工式には今井先生がお見えになった。

昭和50年7月、村田先生は急逝された。72歳であった。私は佐渡の先輩で、お世話になった人は、村田先生以外にはない。「50年史」を前にして、生前の御交誼を謝し、御冥福を祈る。



筆者
田中輝明君

若杉昌也君（最後列）
今井兼次先生

名畑成進校長

東京染色美術学院竣工（昭和54年）

5. 内藤先生御生誕百年記念パーティー 開会のあいさつ

——（昭和61年6月12日，大隈会館）——

まず最初に1,000人の方々から合計3,000万円の御寄附をいただいたこと，深く感謝いたします。

先生の生誕百年を記念して何かやろうということで，一昨年秋構造関係者が集り，相談しました。私が現役の最年長ということで発起人代表ということになりました。私もあと4年で定年ですので，早稲田への最後の御奉公ということで引受けました。もっとも，最後ではなくて最初ではないかとの声もありましたが。

記念事業の第一は，耐震構造についての記念講演です。小堀鐸二さんが適任であるということになり，お願いしました。先月17日に理工学部の大教室が満員の盛況でした。講演の概要は後で述べます記念文集に載せさせていただきます。



早稲田建築 No.18（昭和61年12月）より

先月の8日の日曜日、多摩霊園の先生のお墓参りをしました。遠い所、雨の中を多勢の人にお参りいただき感謝しております。

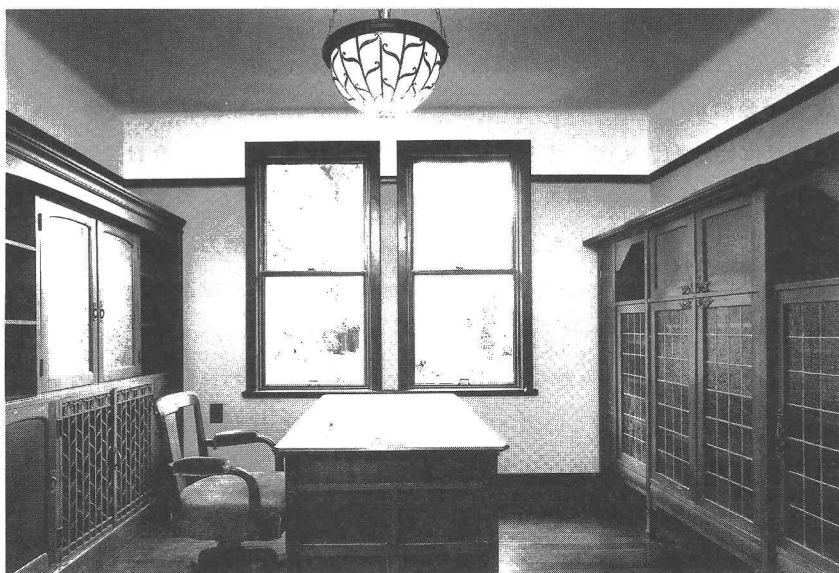
最もお金のかかったのは、先生が大学へ寄附された内藤邸の修理と改装です。設計は鈴木恂さんに、施工は清水建設にお願いしました。今日、見て来ましたが仲々立派でした。早速「新建築」が取材に来ました。鈴木さん、仲々人気があるんだなと思いました。大学との交渉は谷さんが努力されて、この4月1日付けで正式に内藤記念館の規則がきまりました。耐震構造研究の拠点となるべき規則となっています。

最後に文集ですが、「内藤先生の御誕生百年を記念して」という題で、先生の論文、業績を中心に多くの方々からの御寄稿をいただき、本来ならば、本日もお渡しすべきところ、原稿の集りがおくれて、まだ出来ていません。来月位にはお送り出来るかと思っています。誠に申しわけありません。

いろいろ、御協力、本当にありがとうございました。



内藤多仲博士記念館（日経アーキテクチャ 昭和61年8月11日号より）



先生の書斎



記念室

記念館前の旧内藤事務所（木造平屋，この建物も修復した）にて田中弥寿雄さんと（鈴木恂氏より）



大隈会館

武藤先生
明石先生



（竹村興太郎さんより）
小堀さん



瀬谷さん
大崎さん

6. 蛭田賞について

——（昭和62年1月）——

蛭田捨太郎先生が亡くなられたのは昭和52年であるから、今年で10年ということになる。

先日、田中輝明君と、蛭田事務所関係者で、この夏追悼の会をやろうか、と話した。

先生が早稲田の講師を定年御退職されたのは昭和51年である。その前の年、私と田中君が発起人代表で、記念事業として、蛭田賞の設定を企画した。

先生が、工手学校、高等工学校と夜学で学ばれたことから、夜学である早稲田大学産業技術専修学校の優等生に蛭田賞を贈るものである。

賞は文鎮で、純銀、菊竹清訓氏がデザインしてくれた。44個作り大学へ寄附



当初は、建築科の優等生だけに贈るつもりであったが、三田校長の希望もあって、各科（当時4科）のすべての優等生に与えることになった。

その後、産業技術専修学校は、早稲田大学専門学校と名称が変わり、科も増した。

谷校長から、蛭田賞がなくなるという話があった。また、記念事業というわけにも行かず、私と田中君が、それぞれ48万円ずつ出して、20個追加寄附をし

た。前のときは1個3万円であったが今度は同じものが4万8,000円であった。

今度は、建築科の構造成績最優秀の人ということにしてもらったので、毎年一人である、当分続くことになった。

蛭田先生御退職記念事業会趣意書

謹啓 時下ますます御隆昌のことと御慶び申し上げます。

蛭田捨太郎先生には昭和十七年早稲田大学専門部工科専任講師、昭和二十四年早稲田大学理工学部講師就任以来現在まで三十余年にわたって早稲田で教鞭をとられておりますが、来春三月をもって定年御退職されます。

先生は、大正十四年早稲田工手学校建築科卒業、昭和五年早稲田高等工学校建築科卒業の後、昭和十三年早稲田大学理工学部建築学科に聴講生として入学し、十六年に全課目聴講を終了され、昭和二十八年には「建築物の耐震設計並に変断面架構の解法に関する研究」により工学博士の学位を受けられました。

また先生は、早稲田以外でも、青山学院工業専門学校講師、芝浦工業大学教授、中部工業大学教授（現在）として広く教育に尽され、かたわら蛭田研究室を主宰されて数多くの優れた実施設計を世に出され、建築界の発展に寄与されました。

この度、先生が早稲田を去されるに当り、先生の門下生有志が相集い、先生の多年の御功績を称え、あわせて謝恩の意を表すために記念事業を企画いたしました。

何とぞ右の趣旨に御賛同の上、御協力を賜りたく御願ひ申し上げます。

昭和五十年六月

蛭田先生御退職記念事業会発起人代表

松 田
井 中
源 輝
吾 明

各位 殿



蛭田先生を囲む会
(昭和51年 3月12日 大隈会館)



同二次会 高田牧舎

謹啓

新緑の候皆々様益々御清祥の御事とお慶び申し上げます。

私儀

今度古稀を迎え、早大理工学部の非常勤講師、中部工業大学教授を停年退職致しました。早大には在席三十余年の月日を大過なく職務を継続出来ましたのも偏えに皆々様の御支援の賜と深謝申し上げます。その上思いもかけぬ蛭田賞なるものの設定を御発意下さいましたことは、誠に身に余る光栄とは存じましたが、それに値する業績に乏しいことに思い当り内心忸怩たるものがございました。さり乍ら皆様の心暖まる御厚情にふれ有難くお受け致しましたものの御禮の言葉は今尚筆舌に尽し得ない次第です。更にあの様な盛大なる祝宴まで開催して頂き、只々大いなる感激あるのみでございます。

思えば私は早稲工手学校予科二期在学中大正十二年九月一日の関東大震災に、日本橋箱崎町にて罹災致し、その惨状を眼の当りにして心に深く決意するものがありました。以来建築技術者として耐震耐火の構造物の重要性を思い構造学の道を歩むことになったのであります。今尚初心忘れ得ず、建物に取っては構造こそ第一義的に考えねばならぬと云う信念を失って居りません。

今後は余生の総てを傾けて、一つでも多くの建物を不測の災害から守るべく微力乍ら、構造コンサルタントとしての道を進みたいと念願致して居ります故一層の御鞭撻を賜わり度く御願ひ申し上げます。

先は略儀乍ら書中をもつて御禮旁々御挨拶申し上げます

敬具

昭和五十一年四月

〒160 東京都新宿区西早稲田二一〇一五 電話二〇八一二二〇九

一級建築士事務所(有) 蛭田研究室

蛭田 捨太郎

様

拝啓 新緑の候ますますご健勝の事とお慶び申し上げます。
 この度の蛭田先生御退職記念事業につきましては 多大の
 ご賛同を賜り誠に有難うございました。
 お陰様で無事目的を達し得 過日蛭田先生を囲む会も盛大
 に催す事が出来ました。
 こゝに記念事業収支明細報告書を添えて 厚く御礼申し上
 げます。

昭和五十一年五月

敬具

蛭田先生記念事業会

松井源吾
田中輝明

蛭田先生記念事業寄附金収支明細書

収 支 項 目	収 入	支 出	備 考
寄 附 金	円 1,618,000	円	1618口(1口1,000円)
文 房 具 代		5,640	
印 刷 代		112,800	題名書、封書等(3,000部)
郵 送 料		74,205	切手等
振替手数料		9,800	
交 通 費		3,160	電車、バス等
写 真 代		26,100	
記念事業費		1,386,295	蛭田賞 1,320,000円 (30,000円×44個) 蛭田賞氏名彫刻代 66,295円
計	1,618,000	1,618,000	

早稲田大学専門学校

新・蛭田賞規定

昭和59年11月15日制定

- 第1条 新・蛭田賞設定の趣旨
早稲田大学専門学校は、早稲田大学教授 松井源吾、國士館大学教授 田中輝明両氏の寄付金〈注1〉に基づく指定寄付により、新・蛭田賞を設ける。
2. 新・蛭田賞は、正賞（賞状）及び副賞（銀製文鎮）〈注2〉とする。
注1 この寄付金は、早稲田大学教授 松井源吾、國士館大学教授 田中輝明両氏のご厚意により、勤労学生の奨学を意図して本校に新しく褒賞（新・蛭田賞）を設けることとし、寄付金により銀製文鎮20個が、本校建築設計科に指定寄付された。
注2 銀製文鎮は、理工学部講師 菊竹清訓氏の意匠による。
- 第2条 新・蛭田賞の授与
建築設計科（構造コース）当該年度の卒業生（但し聴講生を除く）のうち、学業に精励し、優秀な成果をあげた者の中から、毎年1名を選考しこれに新・蛭田賞を授与する。
- 第3条 選考委員会
新・蛭田賞候補者の選考は、建築設計科主任が当たり、本校主任会に諮る。
2. 本校運営委員会は、その推薦を受けて受賞者を決定する。
- 第4条 賞の保管
新・蛭田賞の授与がすべて完了するまで、本校事務長は副賞（文鎮）の保管の責を負う。
- 第5条 記録の保存
受賞者選考の記録、正賞の控え等の選考委員会の記録を明記して永く保存する。
- 第6条 付則
本規定は、昭和60年3月から施行する。
2. 新・蛭田賞の授与は、副賞の残存する間を限度とし、その終了をもって終わる。
3. 副賞には授与の年度・受賞者の氏名を刻印する。但し、その費用は本校より支出するものとする。（付図参照）

付記

蛭田賞、新・蛭田賞の経緯

蛭田賞は、蛭田捨太郎先生が、生前建築構造の教育研究に払われた永年の功績に感謝する目的で、先生の理工学部非常勤講師定年を機会に、記念事業会が組織され、同会は勤労学生の奨学を意図して、昭和51年3月12日に制定された。

褒賞の授与は、昭和51年3月卒業生より施行され、昭和59年3月を以って終了した。

新・蛭田賞は、蛭田賞の終了に伴い、早稲田大学教授 松 井 源 吾、國士館大学教授 田 中 輝 明両氏のご厚意（寄付金）により新たに設定されることになった。今後は、両教授のご趣旨に沿い建築設計料の指定寄付とし、昭和5911月15日新規定を制定した。

7. ハラス教授逝去

——（昭和61年5月）——

ブタベスト工科大学から、ハラス教授逝去の通知をもらった。経歴を見て、随分えらい人だったんだと思う。

謹んで、御冥福を祈る。

ヤノシ君のところへも同じ通知が来たという。日本の大学では、こんなことしてくれない。



The Hungarian Academy of Sciences and the Technical University Budapest announce with great regret that

DR. OTTÓ HALÁSZ,

corresponding member of the Hungarian Academy of Sciences, vice president of the Section of Technical Sciences of the Hungarian Academy of Sciences, Dean of Faculty of Civil Engineering of Technical University Budapest, Professor of Structural Engineering and Head of Department for Steel Structures of Technical University Budapest, member of the National Council of the Hungarian Popular Front, honorary doctor of St. John's University, member of Technical Mechanics Committee of the Hungarian Academy of Sciences, member of the Permanent Committee of International Association for Bridge and Structural Engineering, chairman of the Hungarian National Group of International Association for Bridge and Structural Engineering, member of the Hungarian National Committee of International Congress on Fracture, corresponding member of Structural Stability Research Council, member of the editorial board of Acta Technica and Periodica Polytechnica, owner of gold medal of the Work of Honour and Memorial Medal of Liberation Jubilee

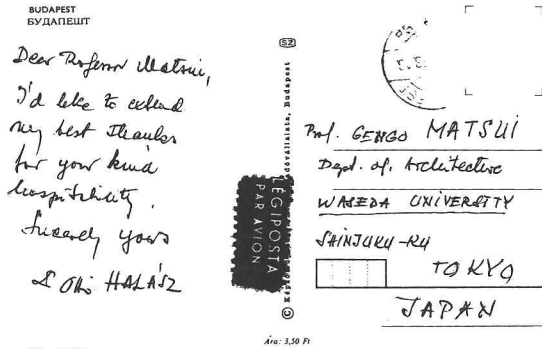
passed away at an age of 59
on 14th February, 1986.

PROF. DR. OTTÓ HALÁSZ was initiator and president of the Scientific Committee of the Second Regional Colloquium on "Stability of Steel Structures". This colloquium is being organised now in his memory.
By the death of Dr. OTTÓ HALÁSZ, Hungarian technical sciences and higher education lost an outstanding representative.

We pay tribute and respect to his memory.

TECHNICAL UNIVERSITY BUDAPEST
DEPARTMENT FOR STEEL STRUCTURES
H-1521 Budapest, PB. 91
HUNGARY

教授はヤノシ君の指導教授である。来日された時、私が理工学部校舎を案内した。それが縁で、ヤノシ君は松井研に来ることになった。彼、今、千代田化工に勤めている。



教授からの古い絵葉書の礼状
がみつかった



Merry Christmas
and happy New Year!
Fröhliche Weihnachten
und glückliches Neujahr!
Heureux Noël
et bonne Nouvelle Année!

Halász

教授よりの古いクリスマスカ
ード (昭和58年12月)

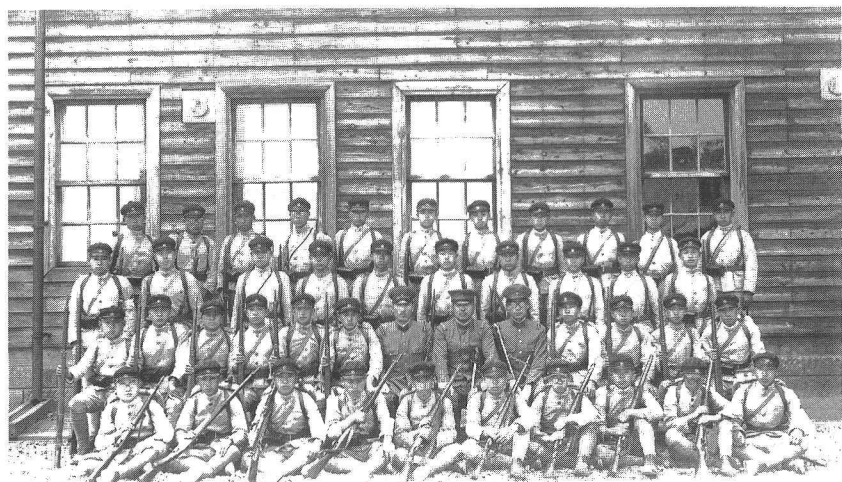
Dr. O. Halász
H-1015 Budapest
Batthyány u. 28-30.

8. 「ミッキー」に「カウ」と呼ばれて

——市橋保雄追悼集「炬火燃えて」(昭和61年11月)——

中学に入るとすぐ、同級の市橋君がつけた私の綽名はカウだった。彼はてきぱきした方だったから、私はのろのろに見えたのであろう。それにしても何故オックスではなくカウなのか。英語のリーダーで先に出たのかもしれない。彼はそれが気に入ったらしく、卒業してからもそう呼ばれたものである。

私の弟子が建材会社の新潟支店長になった時、両津市長である市橋君に紹介した。あいつは仲々頭がいいと私を評したので、弟子は中学の時私が成績が良かったのかと思ったら、「水泳ばかりやって勉強しない、五年生の途中で退学



昭和11年，新発田，佐渡中学4年B組

(前列左より5人目 市橋君

後列左より5人目 筆者)

して受験勉強をはじめた」と。カウらしくなく、要領がいいということのようだ。

市民病院の競技設計の審査をたのまれた。審査員の中で建築屋は私一人であった。病院の間取りは、医者に便利か、患者に便利かですっかり変わってくる。そのことで議論が果しない。そこで私の提案、設計事務所をどこにするかということが第一で、間取りはその後、事務所と病院側できめることにしてはどうでしょうか。5案のうちの一つが飛び抜けてうまい、この事務所にしたら。全員一致できました。「晩飯を用意したのに早々と終わった、お前案外要領がいいな」が市長の感想。カウにしては、といいたかったのであろう。審査時にはもちろん事務所名は伏せてある。数カ月たって学会で岡田信一氏に会った時はじめて彼の設計と聞かされた。最高裁判所、警視庁の設計者である。「どうして佐渡」と聞いたら、新潟の仕事があったからとの事。私の判定は間違っていないと思っている。

市橋保雄君はてきばきとこの世の仕事を立派に終え、天界に去った。



両津市民病院前の筆者（昭和61年9月）

追 記

備考に「昭8.4.1新潟県立佐渡中学入学, 昭53.7.17両津病院の建設基本設計コンペに岡田信一設計事務所が選ばれる」と書かれている。

私の原稿は「市橋君を偲ぶ」という題であったが, このように変更されている。中学同級の福島君が編集委員長で, 勝手に変えたようである。私は市橋君が「ミッキー」という綽名だったことは知らなかった。しかし, そういえばミッキーマウスに似ていた。

原稿でははじめ末尾に, カウは未だにのろのろと野原をさまよっている, と書いたが消した。しかし本音である。中学で成績のよかった連中に対しては未だに, チェオクレの劣等感を持っているのである。

文中の「私の弟子」は川鉄建材の三浦健司君で, 現在は名古屋支店長である。

9. 築地小劇場のことなど

——（昭和61年10月）——

吾々の中学時代は、下級生は漱石の「坊っちゃん」「吾輩は猫である」などがよく読まれ、上級生になると倉田百三の「愛と認識との出発」「出家とその弟子」がよく読まれた。

早稲田の予科の頃、芝居をやっている友人が手伝えというので、築地小劇場へよく行った。その学生劇団は青年劇場といったが、早稲田ではこのほかいくつか劇団があった。当時築地小劇場は、新協、新築地、東童などが主に使っていたが、その間に学生劇団も使っていたのである。青年劇場の主役をやる人の名前が倉田地三という人である。倉田百三と一字違いだけなので聞いたら息子だということであった。その地三さんがキツイ顔の女学生と話をしていた。どこかで見たことがあるような顔だなと思ったら、新築地の薄田研二さんの娘さんとの事。全くお父さんそっくりなのである。お二人はお母さんが同じ兄妹ということである。ふと東京だなと思ったものである。

東童は従弟の小学生山本研君をつれてよく見た。宮沢賢治のものをよくやっていた。少年役者に、大泉、小泉がいて有名だった。大泉滉は今も健在だが、小泉の方はどうしたのであろうか。

築地小劇場は後では国民新劇場とその名前を変えた。その頃には新協、新築地は解散していた。文学座はそれまで飛行館でやっていたが、「ファニー」の時から、この劇場に進出した。

杉村春子は当時映画で老け役ばかりやっていた。ところがこの芝居では18歳の娘ファニーで登場、その若々しいのにはびっくりした。



マルセル・パニョル作
永戸俊雄 譯
「フアニー」

演出 里見 弴
装置 松山 崇

——場 景——

舞臺は全て、マルセイユ舊港附近

第一幕 カフェ・ド・ラ・マリヌ。八月の或る日

第二幕 第一場 オノリーヌの家の炊事場。

同 第二場 パニスの船道具屋の店先、前幕の直ぐあと。

第三幕 パニスの家の居間、前幕より二十ヶ月後の冬。

——配 役——

セザール(蒼海亭の亭主) 三津田 健
マリウス(その息子) 森 雅之
パニス(船道具屋の主人) 中村 伸郎

ブラン氏(リヨン生れの税關吏)
エスカルト・フィゲ

(二錢蒸氣渡船の船長)

渡船の火夫

オノリーヌ(魚屋)

フアニー(その娘で、蒼海亭の店先で以類を賣つてゐる。マリウスの愛人)

クロヂイヌ(オノリーヌの妹)

郵便配達夫

醫師

女 中

通行人

同 人

同 人

イタリア人

その他多勢

照 明

美術

効果

舞臺監督

同 人

中山 昌作

龍岡 晋

宮口 松二

小野 裕子

杉村 春子

月野 道代

遠藤 巖

大河内 幸

賀原 夏子

青野 太郎

荒木 道子

伊丹 直衛

岩本 昇三

穴澤 喜美男

後藤 和

文學座 効果部

戌井 市郎

渡邊 泰

文学座、国民新劇場
(昭和15年12月)

従弟の山本研君は、慶応を出て日本原子力研究所に勤め、フランス政府の留学生として南仏の原子力研究所に留学した。その留学記(「日仏工業技術」 Tome 14 No.5 1968)によれば、原子炉にパニョルの三部作の主人公、セザール、マリウスの名前がつけられているということである。パニョルは南仏出身である。さすがフランスだなと思った。

築地小劇場は、木造で500人収容の小さい小屋で、戦災で焼失、今はない。築地本願寺のすぐそばにあった。

戦後すぐの頃、銀座の馬上盃では焼酎を飲ますのでよく通った。そこで、もう女優になっていて、アルバイトで来ていた薄田つま子さんに会った。女学生の時よりはまろやかな顔になっていた。以来、切符を買わされることになった。若くして(30歳位)亡くなられた。

(配役)	
トパーズ	岡田英次
ミューシユ	清水元
タミーズ	西村見
パニョー	中村榮二
ル・リブーション	中江隆介
レジス・カステル・ペナック	織本順吉
ロゼ・ド・ベルヴァイル	江見渉
尊厳な老人	中江隆介
警官	木村功
下僕頭	倉田地三
シユジー・クルトア	志村洋子
エルネステース・ミューシユ	和田愛子
ヴェルニョール男爵夫人	薄田つま子
タイピストA	關京子
B	吉澤照代

パニョール作トパーズ，青年俳優協同公演，
芝中労委会館（昭和27年1月）



薄田つま子さん

10. 鮎

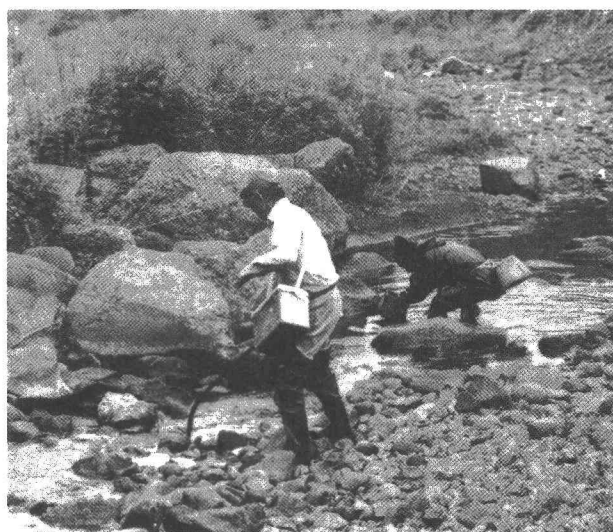
——（昭和61年7月）——

佐渡真野町の「広報」6月号に鮎漁の写真が載っている。川の名前が出てないが、真野川であろうか。

昔、小学生の頃、羽茂川で山本成之助叔父のお供で「鮎の石焼き」をごちそうになったことがある。

成之助叔父はその著「佐渡のたべもの」（佐渡郷土文化の会、昭和52年）のp. 25に石焼きについて次のようにのべている。

く佐渡の川の殆んどすべてに鮎が溯流するが、水の少ない川ではサデ（小手。六尺位の柄のついた絹糸製の三角網）で之をすくい捕り、やや大きな川になると投網でかぶせてヤスで突いて捕る。羽茂川は鮎の大きさと味の鮎で最も優



広報「まの」第146号
（昭和61年6月）より

れ、その「鮎の石焼き」の珍味は天下に喧伝されている。之は川原の平たい一尺位の石の上で2～3時間火をたいた後灰を払いのけ、その熱した石の上の周囲を味噌でドテを築いて囲み、中へ味淋を流し込んで煮立つ中へ鮎を投入れて煮てたべると言う寸法である。〉

鮎の石焼きは、その小学生の時の一度だけであるが、大変うまかったこと、鮎の味のしみ込んだ囲いの味噌を持ち帰り、それを祖母が大変喜んだことなど、よく憶えている。叔父の本の口絵は石焼きのカラー写真で、鮎がきれいである。

「広報」の写真の鮎はサデのようである。

戦後すぐの頃、父が隊長で若い連中が多勢でトラックの荷台に乗り、外海府へ鮎漁に行ったことがある。投網、ヤスであった。投網を打つと、網の目が見えると鮎は石と石の間に静止する、たいていは横になっている。網の外の鮎も網が見えるとそうするのである。そのまま網を上げると一匹も上って来ない。石と石の凹みに入っているからである。静止している鮎をヤスでついてとる。この時は石焼きでなく、大きなナベに味噌と味淋を入れて煮た。いかにも戦後である。酒はドブクロだったろう。どういふものか鮎がうまかったという記憶がない。帰りのトラックの運転が乱暴で、崖の多い海府の道がこわかったことだけ憶えている。

昨夏、葉さんの設計のことで行った熊本県の山の中、小国町の鮎の塩焼きはうまかった。また行きたいと思っている。

11. 「見える力学」の出版

——（昭和61年10月）——

私には光弾性やモアレ法を用いた論文が多い。それらは構造の論文であるから、数学や力学を使っている。しかし、画像だけ見ても論文の意図するところはわかると思う。数学力学を出来るだけ省いて、画像を主とした本にしてみたいと思った。私のつけた題は「力と縞」である。本屋の意見では、そんな題では売れません、「見える力学」にしましょうとの事。私のつけた題は副題にされてしまった。

内容はこの10年間の私の論文を主としたものである。私の研究自体、あまり役に立つものだとは思っていない。したがってこの本があまり売れるとは私も本屋も思っていなかった。

4月に初版1,000部出したのであるが、7月に2版を出すことになったのには驚いた。好意的な書評によるものであると思っている。

1) 見える力学の書評

「新建築」と「日経アーキテクチャ」の書評をここに載せる。

見える力学

松井源吾著

構造というと苦手な建築家も多いと思うが、そのおおよそは建築家としてもつかんでおかなければならない。とくに意欲的なデザインを試みる場合は、必ず構造的なサポートが必要になる。また構造設計というと、机上の計算に終始するが、建築家が油粘土で模型をつくってデザインをチェックするように、モデルに荷重を加え、応力を目で見る方法もある。

本書『見える力学』は、ガラス、セルロイド、エポキシ樹脂など透明材料で模型をつくり、荷重をかけ、偏光をあてると、応力に応じた縞模様が見えるという光弾性による構造書である。とくに白色光をあてて生ずる色の図形は、力の流れがファンタスティックというほど魅力的に美しく見える。そして構造計算の分からない者でも、応力の分布や集中心が一目でわかる。著者松井源吾博士の構造計算に関わったいくつかの建物の実例などの解析は、デザイナー・建築家ならばなおのこと、一読ではなくとも一覧することをお薦めしたい。(G)

(A.5判/170頁/3,000円/鹿島出版会)

新建築61年6月号

光弾性モデルで 力の流れを見る

構造設計集団代表取締役
渡辺 邦夫

表題通りまさに“見える力学”である。力を直接見ることはできない。だが、構造物が完成した時にその構造形態を眺めて、この建物の力の流れはこういうことだろうと想像して、結果的に、それを頭の中で描くことはできる。コンクリートを打設する前の鉄筋の配置とか、鉄骨の組み上がった架構体などでは、より鮮明に力の流れをイメージできる。しかしこれらは、こうであるはずだという想像の世界でしかない。

本書では、力の流れを具体的に見るのできる光弾性モデルを多数紹介している。光弾性は応力に応じて縞が出るので、力を視覚的にとらえることができるのである。その縞の分布と次数を読めば、そこに発生している応力度の大きさが分かる。その上、この縞模様が実に美しい。これを見ていると、自然界のもつ造形美がおのずと理解できる。

著者の松井源吾教授は、周知のように研究者であると同時に、常に第一線にたって実践的構造設計に携わっている構造家でもある。したがって本書は、実際の構造物に則してわかり易く光弾性力学を紹介しており、構造設計実務者が普段の設計で判断に迷うことの多

い問題についても、明解な分析が行われている。柱・梁接合部、開口のある耐力壁、梁のスリーブ、トラスの中央接合部の円板、窓の隅の応力、基礎板と地盤、様々な形状の平面板の等高線、フラットスラブの支点の配置など、すぐに役に立つ実務書でもある。

* * *

最近では構造解析にコンピュータが自由自在に使われている。有限要素法を活用した応力解析が手軽にできるので、それに頼りきった設計者が多いが、松井教授は自序の中で鋭く主張している。

「構造物を有限な要素に区分する、その仕方に問題がある。応力の急変しそうなところは細分するのだが、“しそうなところ”というのは“判断”である。著しく急変するところを大きな要素としてしまうと、その要素の平均が（数値として）出るのであるから危険側の誤差になることがある。光弾性はその点正直で、思ってもいなかったところに大きな応力が生じていたりする。誠に便利で安心のゆく手法である」と。

* * *

力の流れに忠実に構造物を作ることが構造設計の原則である。この原則には2つの側面がある。

その1つは、力の流れは目に見えないから解析することによって力の流れを把握すること。ところが構造物にとっては必要な解析精度というものがあり、やたら細かく解析しても力の流れを知る上で意味がない。一方では、構造物全体に対して大まかな解析精度の

ままで設計してしまうと、細部の力の流れを知ることができない。

例えば、梁の開孔周辺、壁・床の開孔周辺の応力分布など、1つ1つについて精度の高い解析を行うことは実務的にはできないので、経験的に設計してしまう。建物完成後トラブルが発生するのは、たいていこういった局部的なところである。本書を見ると、こういう部分はこういった配慮が必要だな、と一目瞭然である。著者のいう光弾性実験の意味を十分に理解できる。

もう1つの側面は、力の流れは人為的にコントロールできるということである。それが構造設計以前の「構造計画」の重要さにほかならない。壁に開口をとる場合でも、その配置と大きさによって力の流れは自由自在に変化する。

1枚の大型スラブに補剛リブをどうつけるかによっても力の流れをコントロールできる。「構造計画」次第で力の流れを決定できる。

しかし構造方式は無限にあるから、解析だけでその可能性を探ることには限度がある。この「構造計画」という分野でも光弾性とモアレ法は強力な手法だ。「何をどう作るべきか……」を本音で随所に発見することができる。

この地球の上に構造物を作ろうとする時、なるほど力はこう流れているのか……、と改めて理解できる不思議な本である。

鹿島出版会 〒107 東京都港区赤坂 6-5-13
(電話 03-582-2251)

日経アーキテクチュア 昭和61年6月16日号

2) 見える力学の礼状

この本、方々に送った。多くの人から礼状をいただいた。その中からここにサルバドリー教授、坂先生、ヴォジャンスキー氏のものを載せる。

サルバドリー教授の礼状の中に Coker 教授が、坂静雄先生の礼状の中に辻二郎博士が記されている。

今年5月の「光弾性国際シンポジウム(東京)」にてミュンヘン工科大学 Mönch 教授が、「ドイツ、特にミュンヘンにおける光弾性の発展の歴史的考察」という題で講演された。その中に Coker 教授、辻二郎博士についても述べられている。Proceedings からその部分を西谷章君に訳してもらったものを続けて載せる。

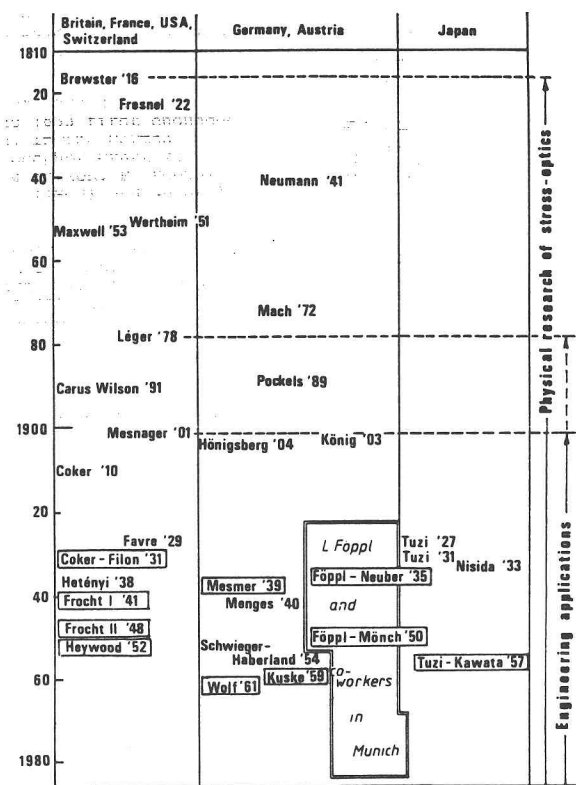


Fig. 1. Some remarkable publications on photoelasticity

□ Books □ Fig. 1

1930年頃には、世界的な傾向として、技術者の関心が光弾性に向けられた。非常に多数の出版物の中から、注目すべきものをいくつか図1にかかげてある。おそらく、CokerとFilonの模範的な著作によって、いかに光弾性が技術者の手助けとなりうるかが示されたのであろう。模型材料として、はじめのうちはCokerによって使われ始めたセルロイドが用いられ、のちに他のプラスチック材料が用いられていたが、これらの大いに有効な材料を使用することにより、実験が平易でより効果的なものとなった。また一方で、多分当時すで

に技術者はより経済的な見地から計算を始めていたし、このために光弾性実験の助けを求めざるを得なかった。

(中略)

日本では、その当時の光弾性に関する仕事は辻二郎という傑物と彼の協力者達によるところが大きかった。英語で書かれた著作のうち、1927年に日本で発表された辻の研究報告と、英国で発表された1931年の報告、さらにひきつづいて1933年にはフェノライトの性質に関する西田の最初の論文があったことを挙げておく。1954年には、辻と西田、河田の「光弾性実験法」が東京で発行になった。

辻博士の略歴が「光弾性実験法」の巻末に次のように記されている。

大正12年東京大学工学部卒業，機械工学専攻，理化学研究所副所長を経て同所名誉研究員，理研計器株式会社社長，東京理科大教授，工学博士，昭和43年10月死去さる。

たしか、国家公安委員長も勤められたように記憶している。卒業年次から考えると70歳台で亡くなられたのである。90歳をすぎて御健在の坂先生には若死と思われるのであろう。

Timoshenko の「材料力学史」に日本人で名前が載っているのは辻二郎博士唯一人である。

Coker と Filon の本は大版で厚い立派な本で、光弾性の写真がほとんどカラーできれいであった。大学院の頃、この本で弾性論の勉強をしたものである。戦時中の日々は、この本を座右の書として過した、なつかしい本である。随分前に誰かに貸して返ってこない、今は手もとにない。

ヴォジャンスキー氏からの礼状は9月にとどいた。ここに長谷川紘氏の訳をつけて載せる。

ANDRÉ WOGENSCKY

Paris, le 8 septembre 1986

AW/FB 4423

Monsieur le Professeur,

Je tiens à vous remercier très vivement pour l'exemplaire de votre livre "LA MECANIQUE VISIBLE" qui m'a été remis de votre part.

J'ai montré votre livre à plusieurs amis et je compte en parler dans une prochaine conférence. Votre conception de la structure du bâtiment "fuseau" de l'Université des Arts de Takarazuka intéresse les techniciens.

Pour Hiroshi Hasegawa et pour moi, c'est un honneur que vous ayez publié ce projet dans votre livre.

Veuillez croire, Monsieur le Professeur, à ma reconnaissance et à ma sympathie.



André WOGENSCKY

ヴォジャンスキー氏から
の礼状

〈ヴォジャンスキー氏からの礼状の長谷川氏の訳〉

パリ, 1986年9月8日

教授殿

先生の御著書「見える力学」をお送りいただき、たいへんありがとうございます。

御本を、さっそく友人達に見せました。また、次回の私の講演会で、紹介させていただくつもりでおります。宝塚造形芸術大学の紡錘形棟の構造についてのあなたの考え方は技術家達の関心をひいております。

あなたが、貴著でこの計画について発表されたことは、長谷川紘と私にとってたいへん光栄なことであります。

私の感謝と親愛の情をお受けくださるようお願い申し上げます。

アンドレ・ヴォジャンスキー

3) 論文集の礼状

「見える力学」のもとになる、この10年間の論文の別刷を集めて一冊にし、「画像法による構造力学と構造計画に関する研究」と題する論文集を作った。60冊作って方々に送った。武藤先生と小堀先生の礼状をここに載せる。

松 井 源 吾 様

冠省

「画像法による構造力学と構造計画の研究」の論文集をお送りいただき、有難う存じました。

先般いただいた「見える力学」を拝見しながら、貴兄の多年に亘る御研究の成果の総集編として貴重な出版であると敬意を表しておりましたが、今回はその基をなす研究論文をいただき、両書を併せて座右に備えておきたいと思います。

今後この研究に精進せられますよう御期待申し上げます。

草々

昭和61年10月22日

武 藤 清

昭和61年10月16日

早稲田大学理工学部建築学科

松 井 源 吾 様

小 堀 謙 二

拝啓 錫秋の候ますますご健勝のこととお喜び申し上げます
さて、この度は『画像法による構造力学と構造計画の研究』論文集をご惠贈賜わり誠にありがとうございました
10年間に亘る研究成果の足跡を一読し、内容の深さに感服いたしました
当研究室にて活用させていただく所存でございます
まずは、書中をもちましてご出版のお祝いとお礼を申し上げますと
共に、今後一層のご活躍、ご発展を祈念申し上げます

敬 具

12. わが水泳—その 7—

——（昭和61年10月）——

1. わが水泳観戦記

昭和13年6月の三大学対抗水上競技大会のプログラムが見つかったので次頁に載せる。

佐渡中学水泳部の先輩の市野重治氏と本間俊夫氏は立教大学に進学された。昭和13年というと、私が早稲田に入った年である。応援に行った。市野さんは出場されなかったが、本間さんはスタンドの最前列の私に声をかけてくれた。プログラムに私が書き込んだ（ ）内は着順である。日大の天野という人が断然早く、800mも400mも本間さんは二着であった。しかし、最後の800mリレーは立教が勝ち、アンカーは本間さんであった。

着順の後の書き込みはタイムである。秒以下は今のようになく1桁である。同タイムでも着順が違ふ。目の判断によったのである。

このプログラムに出ている人達、昭和15年の東京オリンピックが中止にならなければ活躍されたであろうのに。

第五回三大學對抗水上競技大會

主催 日本大學 明治大學 立教大學
 期日 昭和十三年六月十二日午後一時
 場所 明治神宮外苑水泳場
 顧問 日本大學水泳部長 永田菊四郎
 明治大學水泳部長 成富信夫
 立教大學水泳部長 阿部三郎太郎

競技役員

審判長 田畑政治
 出發合圖員 野村憲夫 松浦武雄
 決勝審判員 白山源三郎(主)
 野田一雄 奥野良 根來幸成
 小出賢之助 山本操 横尾清吾
 外川正 牧野正藏
 時計員 藤田明(主)
 保谷俊平 三橋達郎 坂本新
 市橋滿之介 小出晴彦 新間六柄
 永見達明 前川重樹 栗村中丸
 小林慧樹 川田稔 佐藤源彦
 小池禮三 小出義彦
 飛込役員 生江哲太郎
 通告員 清水康男
 競技記録員 藤田貞男(主)
 加納敬夫 青木榮一 吉田靖
 總務 宮田建夫(日) 野口務(明) 守田萬(立)
 救護員 日本大學病院醫局員

1) 入 場 式 1 時	9 門 屋 桂(立) (補缺) 原 保 夫(日)
2) 300米メドレー 1時10分	5) 200米自由形 2時05分
日本記録 3分20秒8 日 本 (吉田、小池、遊佐) (3) 明 治 大 學 藤 堂 友 生(背) 山 口 正 保(平) 3. 49.6 大 城 戸 繁 夫(自) 小 泉 一(背) 野 田 務(平) 中 島 利 生(自) (2) 立 教 大 學 坂 本 响 一(背) 大 浦 誠 一 郎(平) 3. 26.4 新 井 茂 雄(自) 門 屋 桂(背) 上 山 茂 穂(平) 田 口 正 治(自) (1) 日 本 大 學 谷 口 利 弘(背) 葉 室 鐵 夫(平) 3. 24.8 佐々木 猛(自) 鷺 谷 光 明(背) 林 田 陸 夫(平) 平 野 亮(自)	日本記録 2分11秒2 遊 佐 正 憲 世界記録 2分07秒2 (短水路)メデイカ(米) 1 馬 場 止(日) 着順 (4) 2 3 鶴 藤 俊 平(立) (16) 4 平 野 亮(日) (15) 5 中 島 利 生(明) 6 田 口 正 治(立) (2) 2.18.8 7 佐々木 猛(日) (1) 2.15.4 8 大 城 戸 繁 夫(明) 9 新 井 茂 雄(立) (3) 2.17.4 (補缺) 栗 原 徹(日) . 岩 切 主(立)
3) 800米自由形 1時25分	6) 200米平泳 2時20分
日本記録 9分55秒8 牧 野 正 蔵 世界記録 9分55秒8 牧 野 正 蔵 1 本 間 俊 夫(立) 着順 (2) 10.36.5 2 栗 原 徹(日) (3) 10.36.8 3 河 野 隼(明) 4 市 野 圭 治(立) 5 天 野 富 勝(日) (1) 10.09.0 6 水 野 勉(明) 7 本 田 惣 一 郎(立) 8 越 戸 優 一(日) 9 豊 島 吉 蔵(明) (補缺) 岩 切 主(立) 馬 場 止(日)	日本記録 2分40秒4 葉 室 鐵 夫 世界記録 2分37秒2(短水路)ケーヅレー(米) 1 加 藤 俊 夫(立) 着順 2 田 口 實(日) (4) 3 () 4 大 浦 誠 一 郎(立) (2) 2.48.4 5 林 田 陸 夫(日) (3) 2.49.2 6 山 口 正 保(明) (15) 7 上 山 茂 穂(立) 8 葉 室 鐵 夫(日) (17) [1.19.4] 2.45.8 9 野 田 務(明) (6) (補缺) 石 田 豊 年(立) 葉 室 貞 男(日)
4) 100米背泳 1時50分	7) 飛板飛込 2時30分
日本記録 1分07秒2 清 川 正 二 世界記録 1分04秒8(短水路)キーマー(米) 1 小 泉 一(明) 着順 2 谷 口 利 弘(日) (1) 1.11.6 3 坂 本 响 一(立) (2) 1.12.0 4 山 田 薫(明) 5 鷺 谷 光 明(日) (3) 1.12.4 6 平 賀 孟(立) 7 藤 堂 友 生(明) 8 河 野 通 廣(日) (4)	明 大 山 本 典 彦 奥 田 正 勝 高 田 義 磯 島 孝 金 子 文 夫 佐 藤 鶴 松 山 田 一 男 日 大 柴 原 恒 雄 毛 利 元 英 細 谷 幸 四 郎 森 英 之 野 中 純 男
	8) 400米自由形 3 時 日本記録 4分45秒2 根 上 博 世界記録 4分38秒7(短水路)メデイカ(米)

1 豊島吉藏(明) 着順 2 天野富勝(日) (11) 4.55.0 3 本間俊夫(立) (12) 5.01.2 4 河野隼(明) 5 栗原徹(日) (14) 6 鶴藤俊平(立) (16) 7 水野勉(明) 8 馬場止(日) (13) 5.01.2 9 本田惣一郎(立) (15) (補缺) 越戸優一(日) 市野重治(立)	高田襄磯島孝 金子文夫佐藤鶴松 山田一男 日大 柴原恒雄 毛利元英 細谷幸四郎 森英之 野中純男
9) 100米自由形 3時20分 日本記録 57秒2 遊佐正憲 世界記録 56秒4(短水路)フィツク(米) 1 森原幸彦(日) 着順(1) 2 鶴岡榮(立) (15) 3 () 4 平野亮(日) (16) 5 田口正治(立) (13) 1.01.0 6 中島利生(明) 7 佐々木猛(日) (12) 59.2 8 新井茂雄(立) (11) 59.2 9 大坂戸繁夫(明) (補缺) 菅谷光明(日) 本田武次(立)	11) 800米リレー 4時 日本記録 8分51秒5 日本 (遊佐、杉浦、新井、田口) 世界記録 8分11秒5 日本 (遊佐、杉浦、新井、田口) (3) 明治大學 4 中島利生 水野勉 2 豊島吉藏 3 大坂戸繁夫 1 河野隼 山田薫 永山奇一 (2) 日本大學 2 佐々木猛 平野亮 1 栗原徹 3 馬場止 4 天野富勝 伊藤憲夫 菅谷光明 林田睦夫 (1) 立教大學 鶴岡榮 本田惣一郎 3 田口正治 市野重治 2 鶴藤俊平 4 本間俊夫 1 新井茂雄 岩切主
10) 高飛込 3時30分 明大 山本典彦 奥田正勝	12) 優勝盃授與式 (試合終了後直ちに之ヲ行フ) 13) 閉會式

本大会最高記録		新記録	
		日大	明大 立大
300 米混繼泳	3 ₂ 26 ₆ 日大(秋吉龍、葉室、遊佐)	3分29秒8	日大(谷口、葉室)
800 米自由形	10分4秒6 立大 鶴藤俊平		
100 米背泳	1分13秒0 立大 坂本响一	1分11秒6	谷口(日)
200 米自由形	2分15秒0 立大 新井茂雄		
200 米平泳	2分44秒4 日大 葉室鐵夫		
400 米自由形	4分54秒6 明大 石原田 愿		
100 米自由形	58秒2 立大 新井茂雄		
800 米繼泳	9 ₂ 18 ₀ 立大(根上、田口、鶴藤、本田)	9分15.72	立大(新井、鶴藤、田口、本田)
總得點			

採點法 六等迄入賞 (7, 5, 4, 3, 2, 1)
繼泳 (5, 3, 1.)

2. 50年ぶりの佐渡中学水泳部

(昭和62年1月)

昨年秋の「六日会」(佐渡中学卒の60歳以上の人の会)で、佐渡中学水泳部一年先輩の中田雅雄氏、上野一郎氏と会った。一緒に泳ごうかということになり、以来毎週火曜日に三人で都ホテルのプールで泳いでいる。50年ぶりの佐渡中学水泳部ということである。



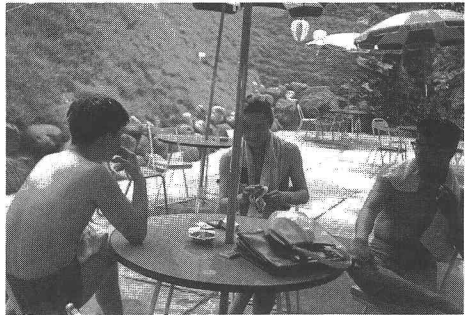
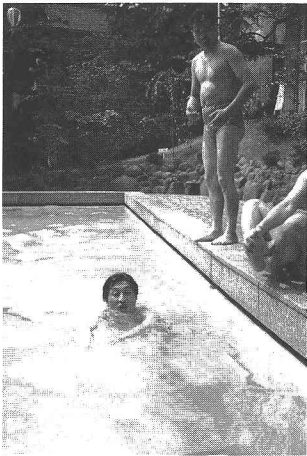
都ホテルで
(昭和61.11.14)



3. 日本閣のプールで

中田さんから古い写真を戴いたので、ここに載せる。

昭和34年の夏と思う。学生や中田さんと、東中野の日本閣のプールで泳いだ時のものである。



日本閣のプールで（昭和34年）

13. この一年



豊島区体育館現場 (61. 3. 11)

小田晋輔君結婚披露宴
(61. 4. 19, 横浜ホテル・ニュー
グランド)



同二次会 (渋谷)



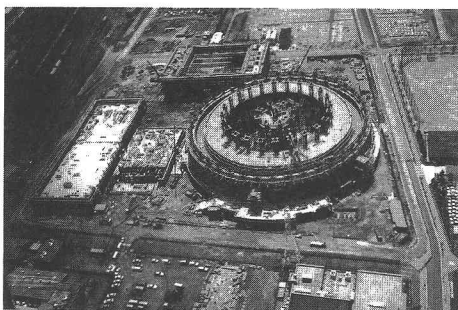


最長老の藍原氏と



中央：上野一郎氏（水泳部一年上，南部社長）
右：吉田功氏（荏原商事取締役）

六日会（61. 5. 10，蔵前工業会館）先輩の伊藤孝次氏より



(61. 4)



(61. 5. 16)

名古屋市体育館現場

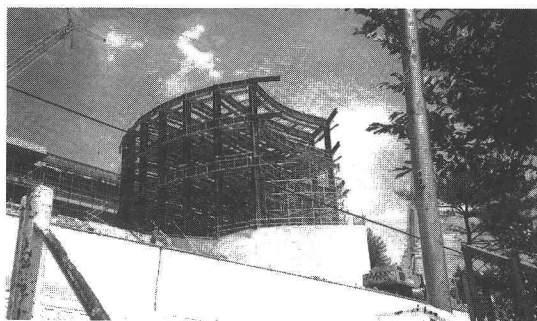
中
野
君

塚
越
君

磐
田
君



吉田正志君結婚披露宴
(61. 5. 18, 赤坂プリンスホテル)



宝塚造形美術大学現場
(61. 5. 19)



田中弥寿雄さんの学会賞のお祝い
(61. 5. 31, 大隈会館)

TELEGRAM

PROF MATSUI GENGO SHINAGAWA-KU KAMI-OSAKI
4-5-10 / 141 TOKYO CONGRATULATIONS AND
BEST WISHES ON YOUR BIRTHDAY FROM JANOS
AND VERA NAGY

ヤノシ君両親よりの誕生日の祝電
(ハンガリーでは長男は父親と全く同じ名前である)

松井源吾先生の誕生日パーティー

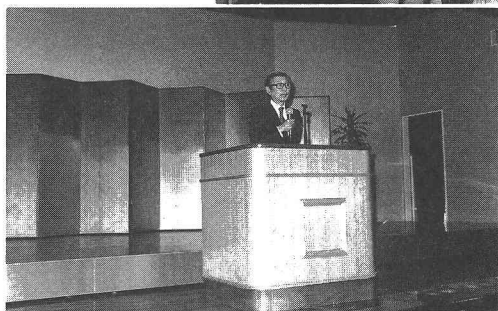
六月七日(土)恒例の理工学部建築学科松井源吾教授の誕生日パーティが目黒雅叙園観光ホテルで行われました。本会は、昭和五十六年以来、先生の誕生日である六月三日に近い土曜日を選び、松井研究室の卒業生が集まり、お祝いをしています。卒業生に先生が下さいます随筆集「稿」も今年で「その六」となりました。本年度のパーティには、昭和二十七年卒業の方から、現在卒業論文を作成中の四年生まで、約百三十人が出席しました。

西谷の司会により、まず松井先生ご自身のご挨拶があり、市川英一氏の音頭でお祝いの乾杯を行い、歓談に入りました。

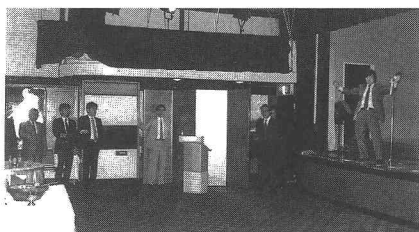
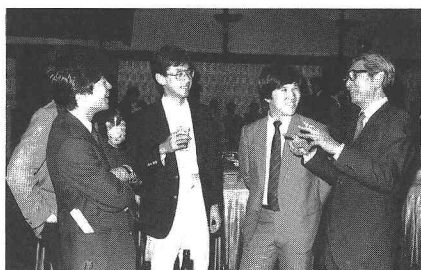
花束贈呈、研究室在籍の大学院生からのプレゼント贈呈にひきつづき、最後に山地徹氏の音頭で校歌斉唱、山形晴一氏による手締めを行い、松井先生の益々のご活躍を祈って散会となりました。
(西谷章記)

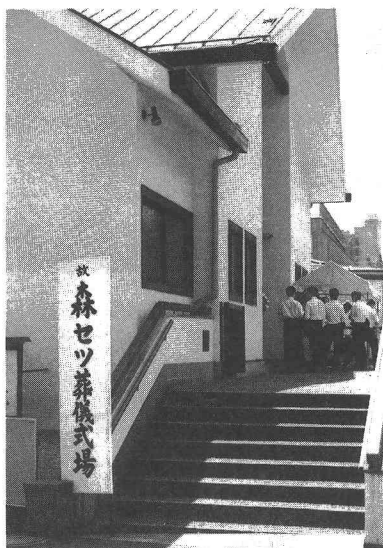
「早稲田学報」昭和61年9月号

市川さんから私の昔の写真（本書巻末）
をもらう









森のおばさん葬儀
行人坂教会 (61. 7. 31)



加茂湖畔 (61. 9. 14)



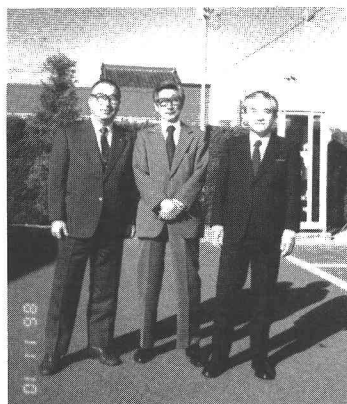
昭和37年卒の会 (61. 10. 24, 新宿)



千葉県英和高校体育館現場
(61. 11. 4)



六日会 (61. 11. 8, 蔵前工業会館)
伊藤孝次氏より



田中輝明君学位論文完成祝
(61. 11. 9 ~10, 浜松)





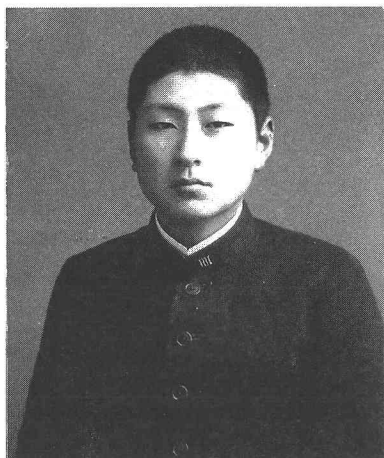
鹿島松井研忘年会
(61. 12. 19, 赤坂美々卯)



清水松井研若手忘年会
(61. 12. 23, わが家1階)

著者経歴

- 大正 9 年 6 月 佐渡真野に生る
- 昭和 2 年 4 月 真野小学校
～ 8 年 3 月
- 昭和 8 年 4 月 佐渡中学校
～ 12 年 8 月
- 昭和 13 年 4 月 第一早稲田高等学院
～ 16 年 3 月
- 昭和 16 年 4 月 早稲田大学理工学部
～ 18 年 9 月 建築学科
- 昭和 18 年 10 月 早稲田大学大学院
～ 23 年 9 月
- 昭和 23 年 12 月 早稲田大学専任講師
- 昭和 27 年 4 月 同助教授
- 昭和 29 年 9 月 早稲田大学第二理工学部
～ 31 年 9 月 教務副主任
- 昭和 31 年 4 月 東京大学生産技術研究所員
～ 32 年 3 月 (国内留学,
坪井善勝研究室)
- 昭和 35 年 1 月 工学博士
- 昭和 36 年 4 月 早稲田大学教授
- 昭和 43 年 1 月 日本建築学会学術理事
～ 44 年 12 月
- 昭和 43 年 5 月 日本建築学会賞 (作品)



昭和12年 1 月 (中学 4 年)



昭和27年 講堂前
(市川英一氏より)

昭和43年 9 月 早稲田大学理工学部建築学科主任
～45年 9 月

昭和45年 4 月 日本建築センター高層建築物評定委員
～56年 3 月

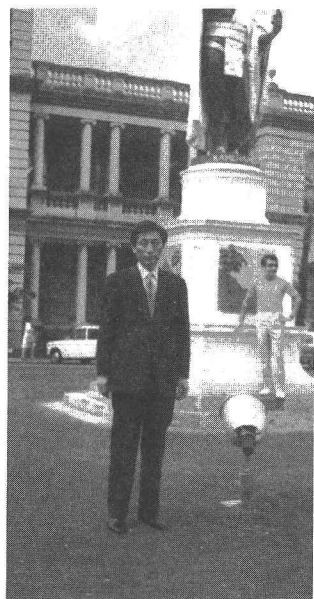
昭和45年10月 早稲田大学産業技術専修学校建築科主任
～49年10月

昭和54年 1 月 日本光弾性学会理事
～現在

昭和61年 1 月 住宅・都市整備公団「ボイドラーメン委」委員長
～現在



昭和40年11月 ミラノ（ドウモ）



昭和46年11月 ハワイ



昭和49年 9月 ライン下り



昭和49年 4月 ローマ (FEAL 工場)
日の丸を揚げてくれた



昭和55年 6月 還暦の祝い (オークラ)



昭和60年 6 月 松井研

編—その 7—

非売品

発 行 昭和 62 年 4 月 ©

著 者 松 井 源 吾

〒141 東京都品川区上大崎4-5-10

電 話 03(491)2077

製 作 株式会社 土木春秋社

〒151 東京都渋谷区代々木2-23-1

電 話 03(370)5020



